愛國婦人

定價一部金參錢五厘　一ヶ月分金七錢　半年分金四拾貳錢　全冠無郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌全部禁轉載
毎月二回　五日廿日發行
發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人發行所
編輯兼發行人　山澤俊夫
印刷人　永持德一

發行所　東京麴町區牛ヶ淵公園　愛國婦人發行所△振替貯金口座番號第壹壹參八壹番●電話番町一五二〇　一七四五番

社說

本を讀むべし（一）

人間の中で、一番本を讀まぬものは、婦人である。婦人の中で、一番本を讀まぬものは、日本の婦人である。最もこゝで婦人といふのは、文明國の婦人をいふのである。野蠻、未開國の婦人は、日本の婦人よりは、もつと本を讀まぬかも知れぬ。しかしこんな婦人と比べて、讀むの讀まぬのと言ふた所で、仕方がない。こんな婦人になりたければ、本を讀まぬが可い。ぢきになれる。苟も文明國の婦人と名乘つて、他の文明國の婦人と、並んで進まうといふには、日本の婦人は、も少し本を讀んで貰はねばならぬ。も少しどころではない、大に讀んで貰はねばならぬ。今の日本の婦人は、殆んど本を讀まぬではないか。

日本の婦人は、世界の婦人とは、特別に出來て居つて、自から賢い、吸ふ息と共に、鼻から智慧が吸ひ込まれるといふのならば、知らぬこと、さうでない以上は、やはり本を讀まねば、氣高い立派な思想は、養へぬ筈である。自分は、職業柄西洋の婦人の書いた本を色々讀む。讀んで、これが婦人の頭から出た考か、婦人でこれだけの意見が出て、これだけの本が書けるものかと、つくぐ感心して、さて我が國の婦人を顧みると、二千五百萬人の中、これだけの頭の婦人が、一人といひたいが、一人もないのに、殘念で、情けなくて、泣きたくなる。日本の婦人は、書くことは、さておいて、讀みさへせぬのである。日々の新聞に、新刊の書物の廣告が澤山出て居るが、あれは百分の九十九分までは、男子が書いたもので、また男子が讀むのである。いや、大多數の婦人は、新聞に書物の廣告が出て居つても、出て居るか居らぬかも、氣がつかぬであらう。白粉、洗粉、呉服屋の賣出しなどの廣告は、再三再四閲覽熟讀して、諳誦して居るに拘はらず、書物の廣告は、蠅が飛び、蚊が鳴いたほどにも思はぬ。素より野蠻、未開の婦人は、本を讀まぬ。讀まぬのは、讀まうも、始めから本がないからである。無いで讀まぬのは、當り前であつて、日本の婦人が、本を讀まぬのとは、譯が違ふ。日本には、本がある。ありすぎるほどあつて、絹物一枚の代價で、二十冊も三十冊も買へて、御禮まで言はれるに拘らず、讀まぬのである。書物の洪水時代といはれて、本の多いのに困つて居るほどの時代に於て、不自由らしく、一冊も本を讀まぬとは、不思議ではないか、情ないではないか。

或は、私等は雜誌も讀んで居る、小說も讀んで居る、料理の本も讀んで居る。これでも、本を讀まぬのかと、逆捩ぢを喰はす婦人もあるであらう。しかし、その雜誌は、假名附きの、子供だましの、少し理の込んだものは拔きにした婦人雜誌である。倫理、哲學、數學、理學等の專門雜誌は、男子が讀むべきものと、相場が極つて、買はぬは勿論、夫の手許に來ても、一頁も開けては見ぬ。小說は探偵小說、お家騷動位が關の山で、人生の深奧に觸れた、考へて讀まねばならぬやうな小說は、面白くないといつて見向きもせぬ。料理の本も結構だが、椎茸や干瓢だけで、世界の眞理や人生が味はへるものではあるまい。讀めば、一層味のある讀み答へのあるものを、讀まねばならぬ。お家騷動や料理の本も、體裁や、紙に墨が附いて居る所は、本に違ひないが、本には、一層高尚な本、本と名乘るだけの威嚴と價値をもつて居る本のあることを、忘れてはならぬ。然るに我が國の婦人は、この眞の本を顧みずして、本の幻影、本の形をしたものばかりを、有難がつて讀んで居る。もし麥飯と香物のほか、世の中に食物はないと思ふて居る人間があつたならば、我々は、氣の毒な人である、まだこの外においしくて身體の養ひになる結構な食物が、幾らでもあるといふ事を知らせて、どうか一箸でも食べさして見たいと思ふことであるが、精神上に、麥飯と香物ばかり食べて居る婦人に對しても、同じ考が起らずには居れぬのである。

それならば、精神上の御馳走は、何んな味がするか、讀書の効能は、何であるかといふに、さう簡單に言ひ盡せるほど、淺く狹いものではない。十分に述べれば、一冊の本にもなるが、先づ一口にいへば、功德無量である。

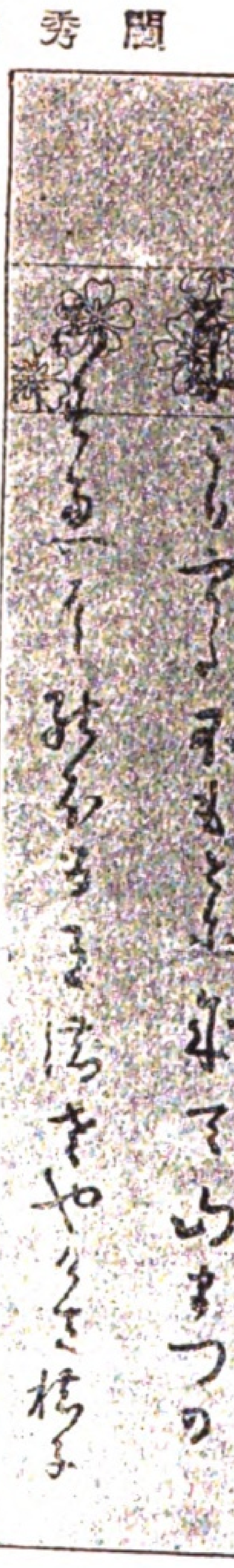
ふみよめば、やまともろこし、昔今、よろづの事をしるぞうれしき。　宣長

貝原益軒曰く、

凡讀書の樂は、色を好まずして、悦ふかく、山林に入らずして、心閑に、富貴ならずして、心ゆたけし。此の故に、天地人間の樂、是に代ふるものなし。古今天下陰陽を以て、道の法となし、心を遊ばしむる境界にして、其の趣、至りて大に、ひろきこと極まりなし。一日書を讀むの樂、至れるかな。……からやまとの史を見れば、遠き昔のあと、目の當りに明らかに見えて、我が身恰も其の世に遇へる心地して、數千年の齡を保てるが如し。此の樂も、亦大なるかな。……人不通古今馬牛而襟裾と、韓退之もいへり。古き文を見ず、古の道を知らざる人の、萬の理に暗く、諸々の事を知らず。夢見てさめざるが如く、迷ひて一生を過す。是大なる不幸なるかな。およそ、古今の書に通じて、理を極め、事を知りなば、我が心の內、萬物の理、見る事聞く事に、疑なくして、大なる樂なるべし。古の文を知らざれば、からやまと古今天地の內にみちくたる理も皆通ぜずして、暗しと云ふべし。（樂訓）

人の壽命は、百歲を出でぬが、本を讀めば、數千年の生活が出來る。人の占むる場所は、六尺にも足らず、目の屆く限りは、十里をも出でぬが、本を讀めば、和漢、洋は勿論、地球以外の事までも分る。同じ命なら、井の中の蛙のやうな生涯を送るよりも、富士山から下界を見下ろしたやうな濶くて高い生活がしたいものである。それは何うすれば出來るかといふに、本を讀むことゝである。

閨秀百佳選



（其七）佐々木信綱大人筆　青木禎子作

（其八）佐々木雪子夫人筆　森田竹子作

雨後夏月　中山幸子

たへかねしあつさなかしてふる雨のはれてすゝしくいつる月かな
夕立に木の葉あらひてちりもなくたまなすつゆににほふ月かけ
木のまよりさす月かけのすゝしさは夕立はれし夜中にそありける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論議

この輕薄世界

愛國婦人會評議員 棚橋絢子

意志弱く感情に馳し——手近い輕薄の一例——何人をも輕薄と思はず——心意の教育が急務

△意志弱く感情に馳し

何うも此の頃は兎角行き過ぎた婦人が多くなつたやうに思ひます。私が召されて東京に上り唯今の女子高等師範學校に出て居りました頃にても、大分行き過ぎた女らしく無い婦人が無かつたのでは有りませんが、當今ほど多數に無かつた爲ですが、それ程世間から注意されなかつたやうでした。

當今の婦人には此のやうに兎角行き過ぎた女らしからぬ人が多いのですが、また一方から見ると、種々の文學を研究したりなぞする爲ですか、感情ばかりが兎角發達して行くやうに思はれます。で、感情のみ發達し行くに連れて、意志の方は發達せずに取り殘されて終ふ。情にばかり脆くなつて我慢、忍耐の心が漸々お留守になつて終ふやうに思ひます。私は自分の宅のこと、嫁なぞのすることを見ても何うも左樣思はれる。子供を育てゝ行くのにも、此の情にのみ偏つた育て方をする故に從つて子供も、我慢、忍耐の心の乏しい、意志の弱いものになつて終ふと、私は左樣思ひます。

△手近い輕薄の一例

當今の婦人は兎角意志が弱くして、感情にのみ走り過ぎる。ですから、意志の力で通り拔けやうとは致さないで成るべく樂に世の中を通り拔けやうとする。從つて浮薄、輕薄になるのであらうと私は左樣思ふので有ります。勿論輕薄になつたのは婦人ばかりでは有りません、當今の世の中は全體に輕薄になつて來て居るのですが、それと云ふのは依然、一般に意志の力に乏しくなつたからのことゝ思ひます。

輕薄になつたと思はれる手近い實例は一寸したことのやうではありますが、出入りの商人なぞに就いても見ることが出來ます。在昔ならば老舖と云ふものは、信用されて——信用の上から充分立派に暮されもし、商賣も繁昌したもので有ります。——勿論當今でも商賣の繁昌して居る老舖の無いでは有りませんが、その繁昌さ加減は昔とは大分違つて來て居ります。それと申すのは、得意先の人も商人も兩方ともに輕薄になつて來たからであると私は思ひます。

例へば此處に或る商人があるとする。この商人が一軒でも多く得意を得やうとするには成るべく物の値段を廉くして、出來るだけ好い品を賣らなければなりません。それも、尋常一樣の格廉位では一寸は得意が出來ませぬ。ですから、算盤にも合はぬやうな程度にまで格廉なことにする。併し斯う云ふことは到底も長く續くものでは無いのであります。ですから、得意が大分出來た頃を見計つて、そろ〳〵品の方を惡くする。と、云ふやうなことになる。

△何人をも輕薄と思はず

斯う品の惡くなつて來たことが、左樣何時までも得意先で知らんで居る筈は無い。ですから、得意先でも好い品を賣る商人の方から買ふやうになる。兎角、斯う云ふことを商人の方でも得意先の方でも兩方で遣ります。ですから、互ひに漸漸輕薄になつて來るのであります。何うも困つたことで。

當今の世の中の浮薄になつたことは、此の一例でも解るでありませうが、何の方面の人と云はず、概して此のやうに輕薄になつて居るので有ります。

ですから、私なぞのやうに初對面の方に度々お眼にかゝるものは、一寸何方が輕薄でありますか、また何方が輕薄で無いかと云ふのを見分けるのに骨が折れますし、それに先方が輕薄なお人であつても、當方からさへ相當の仕向けをすれば左樣輕薄なことをされやうとは思ひませんから、私は何方をも輕薄ならぬお方である、善人であると、斯う思つて御交際致して居るので御座います。

△意の教育が急務

何に致せ、當今は實に輕薄な世の中になりましたが、この輕薄な有樣も行く處まで行きついたら直ることゝ私は思つて居ります。

それに就けても只今の婦人の意志をもつと強くしたいものと思ひます。在昔は意志の教育、心の教育が、何事に於いても先立つて居りましたけれど、唯今は兎角左樣で無く、知識のみを授け、また受ける方でも、知識を得さへすれば好いやうに思つて居ります。寔に困つたことでは有りませぬか。

ルーテルの母（三）

文學士 S U 生

學校に於けるルーテルも、家庭に於けると同じく敎師から屢々體罰を受け、時には一日に十五度も鞭たれたことがあつたさうである。

ルーテルは幼年時代のことを追想して此やうに云ふて居る。

「私の兩親は誠に貧しかつた。自分の父は樵夫のやうな仕事をして居つたので、母は父が切り倒した木を背にして出かけたのである。て、母は此材木を賣つた利益で、私等を養つて下さつた。——兩親は實にわれ〳〵の爲めには如何なる困難をも辭せずして働かれたのであつた。」

ルーテルの母は熱心な宗敎家で、飽まで夫に從順であつたが、父は子供等を敎育するには、棒が一番好い道具だとばかり考へて居た程の人らしいのであつた。

如何に母が優しい人であつたか、如何に深い記憶がルーテルの心に刻まれて在つたかは、聖書の端に

「世の中に信心な婦人の心ほど美しいものは無い。」

と記してあるのを見ても解るし、また、如何に母の眞の愛を考へ、如何に深く其愛を心に銘して居つたかは、ルーテルが後日アウグスチンの僧侶となつた時代に徒歩で獨逸から伊太利までアルプス山を越えて旅行した時

「その子をして羅馬に於ける高德の僧たらしめた母は幸福である。私はかゝる幸福を母にも分たうとして心を苦め隨分身をも苦しめた云々。」

と云つたのに依つても其の一半を知ることが出來やうと思ふ。

ルーテルの母は一千五百三十一年まで生きて居つた。その晩年は長子の助けに依り僅かに安き日を送ることが出來たと云ふことである。

最後に附けて云ふが、その遺骸は母が其の夫と諸共に生活して、立派な子供等を育て上げた寒村の墓地に、夫の墓眞近かに埋められてある。

泰西の歷史を讀まれた方々は何人も、ルーテルの偉人であることは承知して居らるゝことゝ思ふ。否、ルーテルの偉人であることは萬口一致して居る事實である。されば獨逸、英吉利の文明が成立つて居る限りマルチン、ルーテルの名は虚疑と僞善に反對の證據人として、長へに讃美さるゝことであらう。然らば此偉人を生み、此偉人を育て上げた母なる人は如何に仕合なる、如何に好き月日の下に生れた女性ではあるまいか。（をはり）

△今年の曆△

九月（小） September.

日 S	..	6	13	20	27	..
月 M	..	7	14	21	28	..
火 T	1	8	15	22	29	..
水 W	2	9	16	23	30	..
木 T	3	10	17	24	..	..
金 F	4	11	18	25	..	..
土 S	5	12	19	26	..	..

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人はよし人たらずとも我や人ひとたる道を知らであらめや　平田篤胤

外國人は日本人を何と掘出さんとするか（二）

海軍々醫總監男爵　高木兼寛

△知つて解せられざること

講者は前段に、朝から晩まで、或は毎日の樣に話をして居つても其意味の解らずに居るものがあると申しました。その一二例を此處に擧げて見やうと思ひます。彼の御經と云ふ者は仲々澤山に有し、何人も御經と云ふ者の幾分づゝは御存知である。けれども經と云ふ言葉の本來の意味を御承知の方は尠からうと思ます。經と云ふのは英吉利の言葉で云へばプリンシプルと云ふ事である。道理と云ふ事である。其道理を書た者が經文で有ます。人間と云ふ者は何な者である、斯云ふ者である。それだから人間は常に用心をしなければならぬ。間違つたとを考て居るから、その間違つたとを捨てしまつて、正しいことを考へるやうにならねばならぬと斯云ふ道理を書いたものが經文である。至つて見易い、解易いこと。それにも關はらず、突然に經とは何であるかと問かれると鳥渡速答に困るのである。

△『祈』とは何ぞや

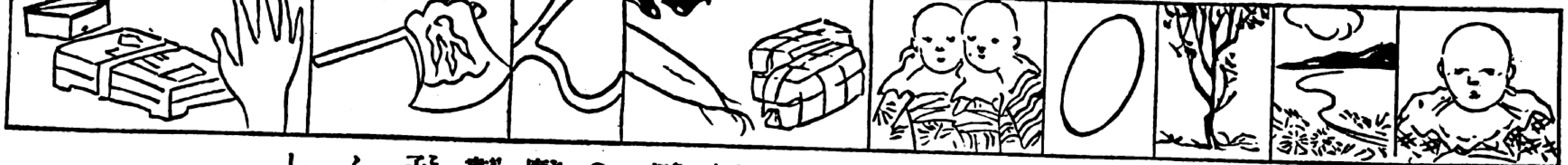
斯云ふ類のとは、他にも未だ〳〵澤山ある。諸君は祈と云ふ事を御承知であらうと思ふ。古日本の家、或は年とつた方々の御出になる處に行つて見ると、いろいろの寺や或は御宮――殊に御宮から出た御札があります。之を見ると、子孫繁昌を祈るとか、商業繁昌を祈るとか云ふやうな事が幾許も書いてあります。

そこで此の祈ると云ふ事です。祈るとは何う云ふ事てあらうか。斯う云ふことを云ふと少し國語の先生みたやうになつて來ますけれども、是は必要な事柄であると思ふ。何となれば兎角誤解されて居るからであります。

抑祈ると云ふことは、自分が何か人に頼んで、頼んで置さへすれば先方からして呉る意味の樣に思つて居る人が多い。故に御宮に詣り、或は御寺に詣つて申述べて置けば、先方よりお願申たゞけの事はして下さると云ふ樣に思つて居る。祈願するなどと云ふ事に就は最も左樣である。併し之が祈ると云ふとの眞實の意味でありませうか。成る程、此祈ると云ふことは種々ありませう。併し、私だけの解釋を申上げますと、祈ると云ふとは、語を換へて云へば目的を聲言すると云ふことてある。意中に確定して、此事を斯うせなければならぬ。或ひは『する』と云ふ決心を、聲に依つて其處へ發表するのてあります。音義から云つても、イと云ふことは體内に在る物が外に出るの意味てあるとか云ふ事てあります。或る物が外に出る、即ち一つの目的がある。それを外に發表するのてあります。

ノルと云ふ事は種々ありませうけれども、ごく簡單な方を云へば、ノルとは告ると云ふことてある。名を名乘りなさいなどゝ云ふ時の告ると云ふことてあります。意を告ると云ふ事、即ち目的を聲言する――告げるどころては無い、聲を發して言ふのてす。一度聲を發すれば、外の空氣を傳ふて耳に依つて再び我體に入つて來る。そこで一度云出した以上は仕方が無いと云ふやうに、祈れば責任と云ふものを生じて來る。てあるから、一定の意見、少くとも十人並の日本男子になるとか日本婦人になるとかと云ふ決心の無い以上は、祈と云つて祈ことが出來ない。何なれば、意中に無のてあるから、何になるか分ぬと云はねばならぬ。何になるか分ぬことを云つて祈れやう筈はないのてあります。次に願と云ふ字の説明、これは次號に引きつゞき述べませう。

懸賞新題を御熟覽



御待兼の懸賞新題

これがお待ち兼ねの『懸賞新題』てあります。今度のは極く極く易しいのてすから何人にもお解りのことゝ思ひます。題は上圖の即ち判じ畫てす。判じ當てた方には悉く『女德論叢』一部づゝ差上げます。但し此の締切は十月の十五日てす。應募さるゝ用紙は端書へ、例へば『彼の子は何人の子』と云ふやうに認めれば宜しいのてす。

御待兼の懸賞新題

躬行實踐の會合（上）

鹿兒島市報德會首唱者　花田仲之助

この報德會と云ふのは、東京で皆さん御承知の報德會とは全く違ひます。此報德會は去る三十九年二月平和克復して私が戰地から歸りました當時から、戰後經營の急務として、國民の品性を養ひ人格を高めなければならぬと云ふとの必要、且は戰捷の原因は全く教育勅語の御主旨、即ち國民道德の根本たる忠孝の精神の旺盛なるに在ることが、中外に認られましたので、三十四年四月七日私の首唱して創設した我が報德會は、茲に時機に逢ひ多數の人の同情を獲て、續々市郡各所に設立され、戰役前既設のものと合し、鹿兒島縣下に約七十ヶ所の報德會を見るに至り、又四十一年三月以來宮崎縣下にも多數の贊成者があつて、既に發會式を擧げたものが十ヶ所以上に至り、會員既に一萬以上に達して居ります。

本會の綱領として居るのは

一、會員は列聖の詔旨を奉體し、知恩報德の主意を服膺實行すべし。
二、會員は至誠を旨とし勤儉力行の風を養ふべし。
三、會員は私德を勵み公德を重ずべし。
四、會員は正義を重んじ職分を全うすることを勉むべし。
五、會員は和衷謙遜の氣風を重んずると共に獨立進取の氣象を養ふべし。
六、會員は國家を愛すると共に個人を敬するの觀念を養ふべし。
七、會員は博愛を旨として公益を圖るべし。
八、會員は自己の品性を修め、以て一家より朋友郷黨に及ぼすことを勉べし。
九、本會は學問と宗教の異同を問はず、汎く道義を講究して修養に資すべし。
十、本會は實踐を主とす。會員は本會の主意及び綱領の實踐を勉むるのみならず、本會にて議決せる實行問題は熱心に履踐に勉むべし。

と云ふのてありますが、就中、この第十番目の『實踐を主とす』と云ふのが本會の生命とも云ふべき、また、他の會合とは選を異にして居る特色とも云ふべきてあらうと思ひます。

抑も實踐と云ふことは、之れを言ふに易くして行ふに難いのてあります。てありますから、私は此の實踐と云ふ處に目を付けたので有ります。此の實踐と云ふ處に目をつけ、先づ實踐し易い、少し氣を付けさへすれば、直ぐ實踐さるゝと云ふやうな目前の問題から手をつけて行き――即ち近きより遠き、淺きより深きに及ぼすと云ふ意で、先づ、朝起きて容姿を整へたらば父なる人、母なる人に必らず禮をすると云ふことの實行問題を出したのてあります。と云ふと、誠に詰らぬ、父母に禮をする辭儀をするなぞと云ふことは何人てもする、今更めかしく云ふ必要はないと、斯う云ふことを云はる方があるかも知れぬ。が、併し、實際の處、朝起て父母に禮をせぬ人が仲々ある。而も己れ先立つて此の模範を示すことをせずして、これを其の子に强ゆると云ふやうな一家に長たる人が尠くない。おやに依つて、私は、かゝる手近き實行問題を出し、熱心に履踐せしめた。その結果、本會の會員で今は之れを實行せぬ人が一人も無くなつたのてあります。

一例て申さば、先づ此のやうて、第二第三の問題に渉り、次第に實踐して行きました、その結果は仲々に好い。而して次第に今までの不都合な行爲を飜然として改めた人も仲々あります。その中の感心なお話を二三致しませう。

美顔料　パール　東京濱町　平尾分店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界繪旅行（二）

埃及の三角塔

次に繪旅行の節を埃及に停める。節を停めた處は埃及の首府カイロー市である。カイロー市の西端に行くと、有名なナイル河が流れて居る。此河畔から三角塔へ行の電車に乘るべき停車場がある。此電車は日本の電車よりも餘程遲い。その上不潔である。が、此電車の線路は人道に沿ふて敷設されてあるから、電車に乘りながら、宛然五百羅漢のやうな埃及人の往復するのを見ることが出來る。之れがせめてものカイロー電車の特色である。

此處に五百羅漢と云つたが、それは實際で、風采から云ふと、男か女かの區別は殆んど出來ぬ。それに服裝は唯だ風呂敷でも被つたやうに見えるばかりの、至つて簡單なものである。

電車の上で此の五百羅漢的奇風俗の埃及人を見て居る裡に、遙かに三角塔が見えて來る。この遙かに三角塔を望んだ景色は何とも云へぬ珍らしい景色で、埃及へ來たと感ずるよりも、埃及の繪でも見て居るやうだ。

四十分程走つた後、電車は其終點に達した。此處から坂を上る〳〵六七町にして三角塔へ達する。歩くのが可厭な人の爲めには驢馬と駱駝が、日本の小荷駄馬のやうに準備されてある。併も澤山待つて居てしきりに乘れ〳〵と勸める。

三角塔の建つて居る處は丘陵であつて其麓までは一面の原野。ナイル河の水は此處へ溢れて來ると云ふ。此丘陵は砂漠の高くなつた處であるから、一本の樹木だも無い。實に物凄い處である。

埃及には三角塔が全體で七十七個あるとのことだが、ゲザの三角塔は其中の最大なものである。此最大な三角塔の現在の大きさは麓の處で七百五十五尺四方、高さは四百五十尺、全體の容積は八千五百萬方尺である。無論、最初からすると餘程小く——何でも二三十尺は今までに小さくなつたのである。此調子で行くと、最後には全滅するに定つて居る。

爰に一つの不思議は、此三角塔が見やうに依つて、見れば見る程小さくもなれば、大きくもなることである。

その理由を云へば、元來埃及は餘り高山の無い國で平地が多い。故に此邊の高地から見れば廣々とした景色が見える。その廣々とした景色を見ながら三角塔を見れば、周圍の廣い景色と比較されて、大きな三角塔も小さく見える。これは自然の理である。

若し又た三角塔の大なるを知らうと思はゞ、暫時他の光景に對しては眼を閉ぢて、唯三角塔のみを見詰めるが宜しい。すると始めて大きく見えて、埃及古代の文明を代表するものとなる。

アラビア人に伴はれ三角塔に上る

抑も人間の造つたもの丶中で、未だ三角塔よりも大きなものが世界に無い。これは嘗に大きさばかりでは無い。其構造の巧みなる點に於ても比類が無く、埃及古代の人々の數學上や、建築學上の知識の進歩は、これで事實の上に證明される。

此三角塔へは嘗て上ることの出來ぬ時代もあつた。が、今は漫遊者が隨分上るやうになつた。併し此三角塔上りは仲々容易なことでは無い。此挿畵でも分るやうに、何しろ一つの石の大きさは仲々に大きい。それのみか、その上が苔むして滑かになつて居る。だから上るのに容易でない。が、恰度富士山の强力のやうにアラビア人が手をひいて案内して呉れる。

約二十分で頂上に上る。頂上に上つて此三角塔が今を去ること五千餘年前に建設されたことを思ひ、此塔下には古代埃及王の遺骸が埋められてあることを思ふ時は、實に感慨無量である。

話の種

(11) 武林唯七の母

ひつじ

忠臣藏で名高い赤穗義士のうちでも、上野介に初太刀をつけたといふので特に有名な武林唯七の母も、さすがに平凡の婦人ではなかつた。

此女房、曾て内匠頭の乳母を勤めた程の女とて、此凶變に接するや無念やる方なく、葬送の供して歸れる唯七を呼び近づけ、殿の御無念の程いかばかりぞ、母は何とかして吉良を討ち果し、亡君の御墓に供へ奉り、然る後に生害して黄泉の御供したいとは思ふけれども、甲斐なき女の身の何事も心に任せざれば、卿母に代りて志を發し、首尾よく吉良を討つて亡君泉下の御憤恨を休めよ。苟しくも弓矢の家に生れて、忠の一字を忘れるやうな事があつては、畜生も同樣である。今吉良を討つて刑場の露となるも、戰場で討死するも、忠義に變りはないのであるから、必ずとも母の一言を忘るゝなと、嚙んでくゝめるやうに言ひきかせ、その夜をまたず一室にたてこもり、左の遺書を遺して潔よく自刃したのである。

其の遺書に曰く、

なき跡にあはれとも見へし袖の露、涙にかすむ朧夜に、月すみの江のそこ淸く、濁らぬ心を言ひ殘し參らせ候。先づ〳〵殿樣御事は、そもじは如何思ひわききまへ給へるや。みづからは唯だ夢路をたどるやうに思はれ、あるに有れぬ胸の火の、きゆる間とても荒磯の繋がぬ船のやるせなく、此の儘にて世にあらんことは不覺に候故、惜からぬ命をのがれしとても、うばたまの暗き闇路に追つき參らせ候て、冥途の御道しるべ申さんと、一すぢに思ひたちて候。そもじには幾久敷知れぬ世にたのしみ、めでたく暮し候はんや。

一、年頃高野山へ日拜望み候ふまゝ、心がけため置きし金子三兩、銀四十匁計り、簞笥のうち、紺縮緬の服紗に包みおき候。されども不足に候はん程に我ら手道具賣拂ひ、右金子に加へ、玉龍院樣まで登せ給はるべく候。

一、淺草の金剛院樣に斷り申され候て我身の遺骸を泉岳寺へ送り、殿樣の御墓の近くに印を殘し給るべく候事。

一、紅葉の守りは高野山より申し請け侍の運を開く守に候ふまゝ、白無垢に添へてそもじへ送り參らせ候。亡きあとの形見と思ひ給はるべく候。

一、紫縮緬の小袖、黒繻子の帶は、おくらへ遣はし申度候。扨またゆうてん樣の名號一ぷく羽二重の小袖はしが方へ送り玉はるべく候。

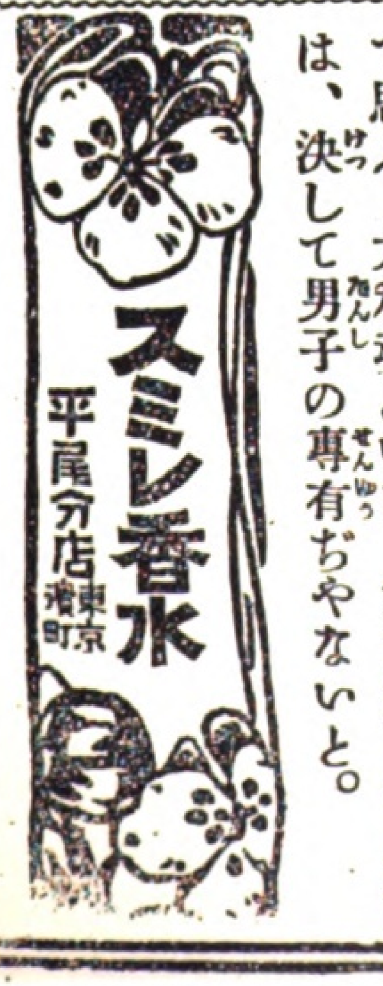
一、郡内縞の帶と、絞り浴衣はつたに遣はし候。鼠の木綿袷は三五郎に取らせ申候。其他手道具はいかやうとも拂ひ下さるべく候。さなきだに女は五つの障ありて罪とが重しと佛も御說き遊ばし候に、刄にかゝる此罪の、未來は何と鳴海潟、しほたれまさる涙は、なほかきくらす老の筆を、ゆく衞もさかね申しのこしまゐらせ候。最期を急ぎ候ふまゝ心せかれ、曉つぐる鐘の聲、諸行無常と書きとめ參らせ候。かしく。

三月十五日夜　母より

武林唯七殿

返す〳〵もそもじ事、志あつく、自の事思ひ出し、一日も空しく暮し申されまじく候。此の曾我物語は孫太夫樣に返したまはるべく候。

文情かね備はり、至誠鬼神を動かすとは方に此種の文字を云ふのであらう。依て思ふ、大和魂といひ、武士道といふ事は、決して男子の專有ちやないと。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

書題「洪水」

村羊生

（五）

其のお爺さんは、どうした人かとの御尋ねて御座ります。

姫君の御意を受けたる侍女は、言葉靜かにかう尋ねる。老巡査は重々しく、

何、ほんの、御意にかけらるゝまでもなき自分のもの。御尋問なれば申上げまするが、向島の裏手、A―町の長屋住居、平素は屑屋を渡世の其の日暮し、見るかげなき貧民で御座りまする。え、家族は是れなる老爺と孫娘、それに此の娘の母親――老爺には死んだ息子の嫁女の三人暮し。死んだ息子と申上げましたのは豫備の歩兵、三十七八年の戰役に從軍して、旅順の包圍で名譽の戰死――それからといふものは、可弱き女の腕一つて、娘の身仕度はいふも更なり、舅の爲めには他家樣の賃仕事、僅かのお金て親子三人――まことに早や近所きつての評判もので御座りましたが……

老巡査は異がに暗然として、

思ひがけない昨日からの出水、附近でも低地だけにたまりませぬ。スワといふ間もあらばこそ、一瀉千里の勢ひで押寄せ來る濁流にまかれ、ミリ〳〵ミリと地響したのが最後――ゴーツといふ凄じい響きと共に、家も――人も、あなた！

と言ひかけて、慌しく帽子の庇の雨濶れを左手の指先て拂ひのけ、

血氣の若者てさへ、僅かに九死に一生を得たくらゐだと申します。ましてその、御覽の通りの老人に女子供、誰れに救助を呼ぶひまもあらばこそ、アナヤといふ間に家ぐるみ――月の二十日は宵暗と申しまして、平素の時でも暗闇なところへ此の暴風雨て御座ります。一天磨墨を流したとばかり、あやめもわかぬ闇夜の出來事――無論その人民保護は手前共の職務、人一人に過ちあらせても、脱れ負うせぬ責任では御座りまするが、如奈せん不時の天災、それツと繰出した時は旣に遲し――附近一面は泥の海。船を出さうにも船はなし、加へて暴風に濁流滔々、悲鳴はいたづらに闇に流れて、そこと思ふ間に早や十間、何とも手のつけやうも御座りませぬ。――翌朝の調べによりますると、此の附近ばかりでも、溺死者の數は四十六人と御座りまする。その一人が此の娘の母親――。

姫君は思はずハンケチを雙の御瞼。

（六）

何しろ咄嗟の事で御座りまするて、老人に子供も一度は濁浪のうちに攫はれましたが、命運といふものは妙なもので、死なば共に相携へた二人の手が、圖らず二股にわかれた松の樹に引きかかり、危き命を取留めまして御座りまするが、さて翌る日のお午飯過ぎ、可愛いの嫁女が死骸となつて現はれたのを見ると、老爺はその場から氣も狂亂。今日も朝から飯をも食はず、初や〳〵と呼びつゞけて、女とさへ見ますれば誰れ彼れの見解なく、物をも言はず遮二無三に、嬉し淚に取縋るといふ始末。――現にその今も今、つい此の先方て、と後を見かへり、

被害者一人御座りまして、中には吾妻橋上の出齒龜だなぞ、飛んでもない取沙汰まで御座りまするて、取鎭めの爲めとあつて此の私――來て見ますれば此の體たらく。素より狂人のあとさき見ず――御馬車に御怪我のなきが何よりの幸、あとは手前が引受けまするて、御通行少しも御差支へは御座りませぬ。

年に似氣なき辯舌のさはやかさに、姫君もしんみりとして、たゞ餘念なう御耳を傾けさせ給ひしが――

千代や。

と仰せて二言三言、しづ〳〵と立寄らせ玉ふよと見れば、娘の手をそと取らせ、珠の御淚ハラ〳〵と、

堪忍してね。

とばらくは御無言。やがて侍女より何事をか老巡査に囁かさられて、再び御馬車に御移乘あり。輪聲轣轆として東をさして去りたまふ。

御跡見送りまゐらせて、老巡査は思はず平伏――群集も誰れ一人顏をあぐるものさへなかつたのである。

（七）

竹州の畫題は「洪水」てあつた。竹州は此の秋の文部省展覽會に出品するんだといつて、殆んと寢食を忘れて是れが製作に苦心して居る。若し人ありて畫題の由來を聞けば、竹州は一葉の時事新報を鼻の先につきつけて、今年の秋を見て呉れと、邪念なき雙の瞳を輝がすのである。新聞の標題には「某姫君の御仁慈」とあつて、吾妻橋に於ける悲劇の詳細から、頓死せる老爺の愛孫が、忝くも姫君の御手許に引取られ、こよなき幸を享けて居る顚末を、例の美くしい筆て淀みなく細叙してあるのてあつた。（完―四十一年六月二十六日稿）

居牛　京都　山中郁美子

戻りにはわが肉のする車とも
知らて引き行く牛のあはれさ

日本に於ける佛國式化粧

川上貞奴

今日は佛蘭西殊に巴里の婦人が爲る化粧を本邦では如何に倣たら宜いかと言ふ事をお話致しませう、御承知の通り世界流行の中心と言はれる丈あつて、萬事が進んて居ます中にも、男女化粧の法は最も進んて、妾が彼地へ參ります度に每も驚くので在います、先づ彼地の人がお化粧をするのは自分を美くすると言ふ丈てはないので、一は親から貰つた完全の身體と天然の美とを毀損しないと言ふ孝心と、一は他人に對して汚穢い奴と擯斥されない爲めの社交心とからて、自然化粧をして美を保つと言ふ事に注意を怠りません、此點は本邦の人々にも學ばせたい美風かと存じます。

そこで巴里の人達は、多くの化粧品を使ふ前に、必ず皮膚を清淨にしますのは、本邦の御婦人方が御手水を使ふのと同じ道理ですが、彼地では普通の湯水ではなく、牛乳を四倍程の水に割つて、之を微溫湯にしまして、それへ二十分間位入つて其湯をタオルに浸して顏に宛て、蒸すやうに致しますが、是は牛乳が皮膚に効能のある爲めに、自然と毛孔が和かく明いて、汚れが取れます上に、營養分が注入しますから、身體皮膚の色澤が宜くなつて、自然の美しさが增すので、佛國美人の世界に冠たる原因は此處に在るのだと申す事で在います。

是よりも以下になりますと、顏面丈を牛乳て前の牛乳浴のやうに致す人もありますが、本邦へ歸つて來ましては、迚も牛乳浴など、申す贅澤も出來なければ、牛乳て顏を洗ふといふのは仰山らしいので、却々實行出來ませんから、隨分と不自由に思ひました處が、先頃或お客樣から、平尾贊平さんの處で發賣の乳白化粧水レートは、今評判の好い化粧水で、佛國の牛乳浴から思ひ付いて、簡便て牛乳浴以上の効能がある品だと言ふから、使つて見よと被仰つて屆けて下さいましたので、本邦にもこんな進んだ品があるかと思ひまして、試しに使ひました處が、匂ひといひ使ひ心地といひ、實に見たこともない程の逸品で、何でも原料に牛乳の成分と皮膚劑とが主になつて、高貴な芳香を配伍て、恰ど佛國の牛乳浴の効能ある部分を一瓶に縮めたもので、牛乳浴に馴れた者でも、之を代用する事が出來る上に、化粧水だけに奧床しい香氣もあれば白粉下にもなりますので、一番重寶な進歩した化粧品かと存じます。

そこで妾は歸朝以來、始めて如斯逸品を得ましたので、洗顏のときにも入浴のときにも、必と此のレートを滴して入り、浴後には必と此のレートを出來るだけ身體皮膚の全部に塗るので、まあ本邦て佛國式の化粧の出來ますのはレートのお陰てせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

露の榮

（五）

村山貞子

環はこんな女から貰い教訓を受けた御禮心に密に包んだ銀貨と、生家の子達へと姑の渡した菓子の三四を子供に渡して、

「おとつさんの處に御土產におし、之はおまへに上るから、お母さんに世話を燒かせないてね。」子供は不思議さうに見つめて居る。

「まあ奧樣そんな事はどうぞ御よし遊ばして、まあそれては恐れ入ります、よし御禮をしないか。」

よしは頭を丁寧に下げた、環はその樣を見て女のさほど卑しくない生れだといふ事を察した。四角に來たので、

「私は此處から曲るから、御前さんあんまり無理はおよしなさいよ、よつちやんさよなら」

と環は角を曲つて一丁許り先の生家に來た。母や下婢が子供の世話をして上らせやうとして居ると

「もし奧樣御玄關から失禮て御座いますが。」と先刻の女が子供を負ふて來た、家の人は怪訝に思つて見て居る。

「どうしたの。」と環が訊く。

「折角の思召をもしや落しても致しては、と子供から取つて拜見しますと、一日稼いだつても戴けない程の御寳、之はどうぞ御納め下さいますやうに。」と母に向ひ、「これは御隱居樣只今奧樣がこんな大金を下さいましたが之はどうても御返上申度う御座います、どうか御口添を願ひます。」と慇懃に手を下げた。

「それては私が困るから、そんな事は言はないてね。」と環は言つた。

母は大方察して下女に何やらいふと、下婢は急いて立つて行つた。

「そんな事をいふもんてはない、折角上るといふんだから取つてお置き。」と下婢の持て來た折らしい新聞の包を出して、「今日は家の兒共の御宮詣てお赤飯が出來たのを少しばかり包ましたから、子供に上げておくれ邪魔かも知れないけれど。」

「おかみさん車はどうしたの。」

「其處にあづけて參りました、此樣となら伺ひませんてしたもの。」と手を出しかねて居る。

「本當におかみさんさうおしなさい。」と下婢がいふ、彼は再三禮の言葉をのこして持つて行つた。

兄は學校から未だ歸らなかつた。母と嫂と三人打ち解けて今の女の話をして居たが嫂は兒共を寢かしに立つた、他の子供達は書生を相手に庭に遊んて居る。

環は今日は粧もなく今迄の苦心やら今日の事を話して。

「兄さんは外國からさい何や彼や御機嫌伺も遊ばすのに、私は本當に御不沙汰許りて申譯も御座いませぬ。」と言つた。

「なんの御前、武さんもお母さんもい丶方てお前は仕合だと云つて居る位だもの何も心配する事はないから氣易く來てくれるのが何よりて、武さんなんぞに心配かけてはなりませんよ。今日は泊つて行けるのかえ。」

「はい遲く成つたらと申しましたが今日は夕刻御暇致しましやう。」

「夫なら然うした方が可い。そんなら私が送つて行かうかね。」

「然うして下さればうれしいわ。」

兄の歸宅を待つて環は母と倶に歸つた、姑は大喜て明後日の竹葉行を明日にかへて母をも誘ふ約束をした。

老人二人と子供二人をつれて武彥は出かけた。環は勇を相手に留守居をして居ると三時頃歸つた。子供達は各々自分の玩具をぶらさげて來た、武彥は上の兄達のを沸山しさうに見て居る勇の前に、海軍帽とラッパとサアベルを出した、環がサアベルを腰に、帽子を冠せると大意張りて、「勇さんは海陸一緒だをかしいな。」と皆の笑ふのも平氣にぶう〳〵吹き立てる、皆はおみやげのお菓子を食べながら話して居ると、龍夫が大きな果物の籠を持つて母の迎に來た。武彥は直ぐに夫に手をつける。

「之が僕の流義なんて、是を三四軒の義理に使ふ樣なら佐川銀行なんかお茶の子だけれど、」と笑ひながら皮をむく。

「なあに手がつけ切ない程頂き物が無いから那麼事を申ます。」と姑がいふ。

「こりやあ氣拔だ。」と皆は一度に笑つた程なく環の兄と母とは歸つて行つた。

其から環は自分の持場の用に掛つて働いた。其夜小供を寢かしつけてから思つた。世間に自分程幸福な者はない、世の中には隨分金庫の中に金はありながら使ふ事の自由にならぬ人がある、自分は貧しい時には貧しいにしろ、家庭は恁迄平和て、金錢のある時には自由に之を行使する事も出來る、奈何思つても自分は幸福の者である。然し嫁いたなり引き續いて裕に暮して居たら、此う思ふ事も出來なかつたかも知れない、三四年の間時にはお湯錢にも差支へた苦しい試練の期を經た今日漸く此許迄來た、つまり貧しいのも仕合の元てあつた、考へれば考へる程自分は仕合せ者てあると感じた。（完）

西洋お伽 指太郎（下）

青郊

（二）

指太郎は早く此處を逃げねば、迚も殺されると思ひますから、兄さん等をそつと起し、ヒソ〳〵部屋を忍び出て、それから塀を飛び越え當て處もなく、一生懸命に逃げ出しました。

鬼の方ては子供達の逃げたことは少しも知らずに、ぐつすり寢ましたが、軈て夜が明けたので、鬼は起き出て

「オイ婆さん昨夜の餓鬼を伴れて來な―」と云ひますから婆さんは部屋へ行つて見ると、小兒は一人も居らず、自分達の大事の娘が七人とも血だらけになつて死んて居るので仰天して氣絶しました。鬼は待てども〳〵婆さんが來ぬので、何をぐづ〳〵して居ると呟きながら來て見ると大變な事なので之も驚いて、

「エーうぬ餓鬼等め己れ此儘置かうか」と齒噛をして口惜がりましたが、氣が付いて婆さんの顏へ水をかけ氣を付て、直ぐ七里靴を持つて來いと云付けました。此七里靴と云ふのは一足步くと七里步けると云ふ不思議なものてす。

小兒等も一生懸命走りましたが、何しろ鬼は山から山を一足て越えて追駈けて來るので吃驚し、指太郎達は足も進まぬやうになりました。指太郎は其處て又考へて近邊を見廻すと、大きな岩の下に洞穴があるので兄さん達を此處へ隱し、自分は軀が少さくて中々人に見付かりませんから、木の上に隱れながら、一人て鬼の樣子を見張つて居ました。

七里靴は迅い代りに又疲れ易いので、鬼は朝から此處まて走り續けた爲め大層疲れて小兒の隱れて居る大岩へ腰をかけて眠つて終ひました。

指太郎は兄達を此間に先へ逃し、鬼の側へ寄り七里靴を脫がせて自分が穿きました靴は大層大きな物てすけれども不思議の逸品てすから見る內に少さくなりましたので、指太郎は直ぐ此靴て王樣の御殿へ飛て參り、此靴を獻上しますから御奉公させて下さいと申上げて、直ぐ役人にされました。指太郎は其後出世して人に貴ばれ金持になりました。

めてたし〳〵

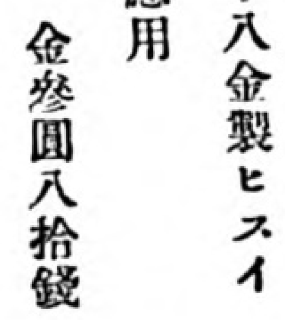
今流行せる束髮さし

金貳圓三拾錢
銀製七寶入

金五圓拾錢
銀製寶石入

其外種々新形有之候尙又御好みに依り調製仕候

最新意匠 瓢指環


十八金製ヒスイ
應用
金參圓八拾錢

右は目下貴婦人令孃を始め黑人筋に非常の好評を博したる最新形に有之候尙其の流行にもれ給ふな

（治）
東京日本橋人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番
振替貯金一一二七二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雑報

△皇太子殿下の東北地方行啓　本月八日日光御用邸御出門、猪苗代湖畔の有栖川宮御別邸に行啓同邸に五泊、それより東北地方行啓の途に上らせられ來月九日還御相成るべしと承はる。

△高等女學校だより　△山脇高等女學校　は同校の特色とせる家庭的寄宿舍の好評に伴ひ入塾志望者の多數なること及び運動場を取擴ぐる必要ありし爲め從來の寄宿舍を取毀ち校舍裏なる崖の中腹なる新敷地に在來よりも一層完美せる寄宿舍を改築せるの由、尚聞く處に依れば同校にては補缺生兩三名の入學をも許可すると云ふ△麹町高等女學校　は生徒追々增加し校舍狹隘を告ぐるが爲め本夏季休暇中講堂音樂室作法室の各室を增築せりと△成女高等女學校　牛込富久町なる私立成女學校は本九月より高等女學校として開校の件文部大臣より認可せられたるが募集中の補缺生入學試驗は本月七日より擧行すと△高等女學校々長會議　去月廿一日より各學科目の間に連絡權衡を保たしむる爲め施設せる方法、修身教授改正に關する意見等の諮問案、訓育上の施設及狀況、生徒の體育及衛生上に特に施設せる事項等の調査事項等に就き高等女學校長會議文部省内に於て開かれたりと

△婦人の野球熱熾ならんとす　學生間に熾なりし野球熱は實業界にも及ぼし來り今や漸く熾なりとの由なるが聞く處に依れば此野球熱漸く女學生界にも擴まりつゝありと云ふ、一面より見れば慶すべく他の一面より見れば遽かに慶すべき事にもあらじ

△婦人團の富士登山　は今年は例年よりも一層多かりし由なるが愛國婦人會本部顧問堀内文次郎氏も一家を擧り且つ學習院女學部の生徒をも同伴して數日前登山を試みられしの由にて此頃は富士登山も至極容易になり且つ電信電話の設備も整ひ居れば婦人精神教育にもなることゝて必ずや來る夏には此夏よりも婦人の登山者多かるべく且つ登山熱の盛になるやう獎勵するも可なるべしなど物語られたり附けて云ふ同山は去月十七日八合目まで初雪ありしが翌十八日も朝來冷氣にて亦霰降り寒氣頗る强かりしと

△避暑歸の兒童　漸く冷氣を催し來れる此頃兒童を伴へる避暑客も避暑地より歸り來れるも漸く多かるべしと思はるゝが弘田醫學博士は此避暑地歸りの兒童に對し衛生上如何なる點に注意すべきやに就き語られし大要に、同じ避暑地より歸れる小兒にしても幼稚園時代のものは學齡に達せるものよりは身體の抵抗力薄弱なる故胃腸の消化力を第一に察せざるべからず、避暑地の空氣は塵や病毒の多き都會の空氣に比して新鮮なること云ふまでもなければ都會より赴きし兒童に取り頗ぶる健康に稗益する處あるは云ふまでも無く、且又た運動も充分出來血行も元氣も旺盛に從つて食慾も盛んなるに再び都會に歸れば空氣も不潔、運動も不足なるにも關はらず食慾のみは依然として進むものなれば忌むべき間食を盛んにするに至る之れ最も注意せざるべからざる第一の要點なりと

△日本實業女學校　井上白鳥兩博士を顧問とし經營廿餘年を經過せる神田小川町一番地鳥海女學校は今回日本實業女學校と改稱從來の裁縫手藝の外更に商業科英語科を增設講師を增聘發展を試みつゝありと

△大日本婦人錄の出版　神田三崎町なる婦女通信社が幾多苦心を重ねて編纂せる大日本婦人錄は豫々今回出版せられたるが其編纂の際には一々各區及び各郡の戸籍に就き綿密に調査し更に各婦人の年齡、其人の官位、勳等、職業等は云ふに及ばず、出身の學校、關係せる各婦人會の名稱等より其里方までも仔細に掲げ卷末には都下七十有餘の各女學校案内、各區の產婆名簿、各病院案内等を附錄とせり、尚釘裝も極めて美麗に四六版千二百頁登載人員一萬六千、發賣所は神田佐柄木町廿一博進社なりとぞ

●滿天下の御婦人へ急告す

べた〳〵と厚化粧を爲し自ら土人形化して天然の美容を害ふは惜むべく又憐むべきの至りにて眞に文明國人の一大汚辱なり齋藤工學士茲に見る處あり多年苦心研究の末和洋白粉の粹長を拔き薄化粧用としては勿論芳香秀絕にして香水匂袋の代用ともなる高等打粉白粉かほりの雪を今回發明製出せられたる處忽ちにして空前の大好評を博し化粧界の革新を促すに至れり希くは滿天下の諸姉よ御試しありて各自天賦の美容を發揚せられんことを但しかほりの雪一個十二錢御望の方は最寄の化粧品店賣藥店等より御求め被下度直接御注文は郵便爲換のこと…………

發賣元　東京日本橋區米澤町一　鳳舞園

新懸賞 披露

去る六月掲出致しました新懸賞に應募された方々は二百五十三名の多きに達しました。尚ほ多數の方は一枚の端書に三種乃至八種ほども答案を認め應募されたのでありますから答案の數から云へば千通以上になるのであります。扨て題は御承知の通り

一、こはてたあ

二、らかにつま

の二題でありましたが、多數の方は二題を合して應募されました。また此の方に優れた答案が多かつたのです。て、二題合した答案のうちで一番多數なのは

あづまからはこだてに(吾妻から函館に)

若しくは

はこだてからあづまに(函館から吾妻に)

の二種でありました。それに次ては

こはたからあてにまつ(子は寶當てに待つ)

若しくは

あてにまつこはたから(當てに待つ子は寶)

又た

あらにはかてこまつた(あら躁て困つた)

たからばこあてにまつ(寶箱當てに待つ)

あてにまつたからばこ(當てに待つ寶箱)

それから斯う云ふのもありました。

こがはてらにたつあま(粉河寺に立つ尼)

こがはてらにあまたつ(粉河寺に尼立つ)

また

つてあらばまごかたに(便あらば孫方に)

からばこてまにあつた(空箱て間に合つた)

それから又た斯う云ふ珍妙のもありました。

あかづらにたまてばこ(赤面に玉手箱)

あらばかにこまつたて(アラ馬鹿に困つたて)

てこあたまにばかづら(デコ頭に馬鹿面)

又た

こらあまたてにかはづ(子等數多手に蛙)

と云ふのもありました。

此の他にも未だいろ〳〵種々ありましたが、餘り下品なもの、充分意味を成しかねたもの、文句に無理のあるもの等は爰に掲げませぬ。扨て以上掲げました答案のうちて、編輯局内に於て種々選評の結果

便あらば孫方に

を第一等に致しました。これは最も奇拔て面白いとの選評てありました。

寶箱當てに待つ

子は寶當てに待つ

以上は兎も角も一貫した文章になつて居るとの選評で第二等に致しました。

粉河寺に尼立つ

空箱て間に合つた

以上を三等に

吾妻から函館に

これを第四等に定めました。これは思ひつきは好いが第三等までの一文章を爲して居るものと比べると、文章の一句に過ぎぬので、少しく見劣りが致して居るとの選評てした。

依つて右選評の結果に從ひ第一等から第三等までに賞品として御約束の『女德論叢』一部づゝ進上げることに致しました。次ぎに五字づゝにして考へた結果を應募されたのには斯う云ふのがありました

こまつばら(小松原)　たまてばこ(玉手箱)

てらにはか(寺に墓)

これは二題合して五字づゝに答案された分です。また一題づゝ獨立して五字づゝに工夫された分には

まがらずに(曲らずに)

あはてだこ(あはて章魚)

と云ふのがありました。この分は最後の一つを除き當選と致しました。即ち同じく『女德論叢』を差上げます。紙面に餘白が無いので當選者の姓名は略します。

佛國最近流行品

香水紙

定價 一組七枚 金拾五錢 送料三組迄 金二錢

○本品は「マリヤ、ルゴール」と稱し巴里化粧倶樂部の考案に因り「ノッファ社」に於て特に高價なる香料を以て製造せる匂紙なり

○本品一枚を簞笥書籍紙入烟草入等に入れ置けば馥郁たる香氣は永く其内に滿ち且つ虫除けの功を有す

○眞に交際家の必要品

外出の際帽子帶ポケットに入れ置けば發汗等にて他人に惡感を抱かしむる患なし

○本品一枚を贈物又は書信中に封送するも亦頗る妙也

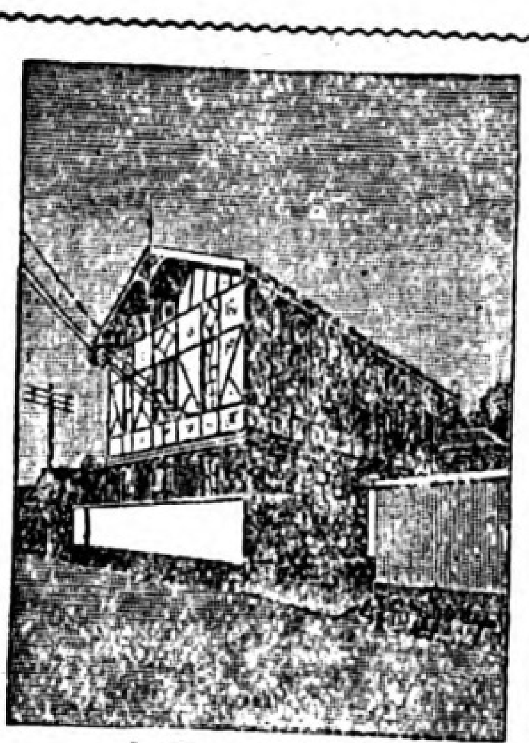
○本品の裏面には歐米美人風景滑稽畫等種類數十ありて多大の趣味を添ゆ

○瓶入香水を使用するに比し上等にして經濟なる本品を是非御試用ありたし

東洋一手發賣元　東京市京橋區山城町十番地　リオン商會

▲販賣御希望の方は大至急申込あれ▼

販賣所　東京牛込神樂坂　東京京橋區南鍋町一丁目二番地　木村秀遥堂



音樂ヲ學ビ度キ方ハ〔東京神田裏猿樂町〕東洋音樂學校ヘ申シ込マレタシ

創立廿年 鳥海女學校改稱

日本實業女學校

東京神田小川町一番地

●裁縫科●刺繍科●商業科●英語科●各科九月始業●規則二錢送

於勸業博覽會賜賞牌及褒狀

裁縫はさみ各種

(定價表は御報次第送呈す)

(電話浪花八五七番)(振替番號二九四七) 東京日本橋てりふり町 かごや

スミレ香水 東京濱町 平尾分店

和歌

佐々木信綱選評

天

美しう涙をさめて笑みしときさひしと聞きぬ山ほとときす　讃岐　瀬高やす子

評　心深き歌、あはれの胸にしみじみとおほゆる歌なり。こたひ應募の中にて最もすくれたり。作者よいよいつとめて進みたまへ。

地

またろうとの發句など書きし小障子もやれて温泉の秋たち初めぬ　京都　つゆ緒

評　こは箱根伊香保なとのことごとしき湯宿ならて靜なる山の湯なるへし。よく初秋のおもむきを得たり。

人

もてはやす玉もこかねもなにかせんまことそ人のたからなりける　岡山　横川明子

評　いひさまは新らしからねと、かゝる心もたる婦人こそまことの婦人なれと思ひて採りつ。

秀逸

百合の香にゑひ心地なる揺床に葉櫻かけの讃岐富士みぬ　讃岐　瀬高やす子

一すぢの筧の水に夏の日もすゞしさあまる山かげの宿　山城　古川米

月しばし松にいるなと笛とりて谷の清水に譜を合せ見ぬ　讃岐　瀬高やす子

湯の宿の窓とりはつし寢ころへは衣桁に蟬の來てはなくなり　岩代　長谷川よしの

朝日かけ露の若葉に照り映えて那須野二十里みとりしたゝる　下野　黒須きく子

つかれたる足もあつさもわすれけり夏の山ぢに清水みいでゝ　福島　鴬田よしの

松かけの岩井の清水むすふまはなつのよそなる心地こそすれ　東京　林きく子

軒ちかく來てなく蟬に幼子のひるねの夢をさましつるかな　愛知　湯淺とよ子

月みんとおばしまちかく立寄れは何處なるらん笛の音そする　大分　靜子

柚人のゆきゝにくみし山の井もこの頃すみて秋は來にけり　山城　小川よれ

今宵あふたなばたつめにとひて見む君まつ夜半のいかになかきと　廣島　金原なを子

獨居はさびしきものと知りそめぬ小萩にそゝぐ雨きゝしより　岩代　長谷川よしの

行水にうつれる雲のおもかけもおのつからなる秋のいろかな　山口　末田竹子

わか君のかゝやく瞳磯にたちて日をのそむとも思はるろかな　駿河　河下曉江

秘めおきしかたみの繪卷とりいでゝまた涙ぐむ白ゆりのまと　岩代　横山橋子

賤の女か來くる小屋に月ふけてあはれも深くきりぎりすなく　越中　永井ちよ子

甲

ほとゝきす月漏る夜半に聞くにつけ國に機織る母おもふかな　東京　中山由子

ほころへきものなき庵もわきいつる清水は夏のたからなりけり　長門　藍田眞子

おこたらすふみ習ひてよ千早振神代ながらの敷しまの道　東京　鈴木秋子

病む母のいかに今宵の虫を聞かむあはれとさせよその妻戸をは　東京　小田ゆかり

秋立つと聞つるからに露野原きりたちわたるけさのすゞしさ　紀伊　失名

松かけの岩もる清水なかれきて日の影さへやとる涼しさ　三河　山内經子

ゆあみをへて思はすきつる川のへのやなきになつの月そかゝれる　京都　田中久惠

玉簾もれてきこゆる琴の音は調もゆかし須磨の浦濱　大分　桂木文子

かやり火の煙の末に月かけのくもるもうれし夏の夜の空　山口　末田貞節子

そよそよと汐風わたるみなと田のいなはの露に月そやとれる　堺市　全田つるえ

潮浴るまなひこへりてちぬの浦またきに波も秋のこゑする　仝上　全田久子

今よりは露草うゑて水引きてむしの音をきく秋をまたなむ　岡山　八木清子

鳴く蟬のこゑも涼しく山里の天地きよき夕立のあと　函館　安藤喜美子

かへりくる夫やいかにと只一人またも立ち出つ夕くれの門　靜岡　窪田とめ子

かしましき世をはのかれてすむ山になほいとはるゝ耳つくの聲　岡山　坂田元子

乙

夕立ちのあとなくはれてわか閨の松にかゝれる露の玉ちる　岡山　西村清子

地震そとひろれのち子かまくらへにそと走りよる親ごころかな　東京　中股富士子

[illegible]釋迦山の麓に瓦燒く煙り友とみやりつ橋すすみかな　三重　西山ひさえ

夏よけに來ん人もかな岩たゝく水の音きよき山の庵に　美作　清水梅子

たへまなくせみはなけとも山寺は何とはなしに淋しかりけり　横濱　鈴木まつ子

夕立はあとなくはれて朝風のすゞしき庭に朝顔のさく　京都　宮田凱露

片かけに花賣車うちおろしやすむ翁に何もとめまし　東京　清水まつ

今しもとまちにし雨も降りやらてあつけさそへし今日のくるしさ　岐阜　小島駒子

ひともして鈴虫とるとさわぐ子のみちしるへする夏の夜の月　越後　阿部秀子

岩石に絶へす月散る瀬つ瀬のしぶきにぬるゝ白衣の袖　横濱　上杉らく

賤か身はことしの夏も家にゐてひとりすゞしき月の友かな　東京　三宅ひさ子

來ては見よをちこち人の目をそひくあこきか浦のみつの泳きを　三重　中島千萬子

新體詩

編輯局同人選評

天

東京　小田ゆかり

こほろぎのかことこちたし
草の戸を月あきらけく
はらはらとこぼるる露の
さよ風にともし火ゆらぐ。
露たけしおん姿かな
みめかたちいと清らかに。
——見まゐらす眼かすみて
御すがたいつかおはさず
こほろぎのかごとこちたし。

評　瞬間の描寫なるべし、清新。

地

廣島　金原直子

織女に代りて

七月七日日は暮れぬ。
天の大原はるばるに
今宵わたます背の星の
などてか遲き夜も更けむ。
あしたの雨に天の川
水嵩のいたく増さりしか
牛の歩みののろければ
なやみますかも背の星の。
まれに逢ふ夜のありてこそ
寢醒めわびしき月影に
幸なき身をば泣きつゝも
なほ一年は忍ぶべし。
梭の手止めて君待てば
絶えてしらべぬ琴の緒の
胸にたか鳴りそのかみの
ありし夜のごと血ぞたぎる。

評　同情の筆致、濃艶の詩。

人

香川　瀬高やす子

四年ぶりなる里がへり
處女のわれを羨みて
幸なくかこつ友に逢ひ
獨ほこりの眉たかう
かた頬に笑めどしかすがに
胸の思ひのさびしさよ

評　結句尤も振へり、佳什。

佳作

班婕妤が怨歌行を譯す　岩代　長谷川吉野

雪の白絹そと裂きて
團扇に張れば望の夜の
月の清きにさも似たり
優しき御手に握られて
夏の日毎の朝夕に
又なきものとめでられぬ
やがて秋風そよと吹き
露の白玉野に充てば
暑さと共に忘られて
破れし儘に閨のすみ
見かへりもせぬ仇人の
心の裡ぞうらめしき。

評　筆致老練

涼風　因幡　橋浦奥喜

夢を吹け風千鳥の夢を　浮寢重れた和毛をわけて
深い眞淵の眞珠の滴り　瑠璃の小波和毛の梭に
日永疲れの夢を織れ。

評　推敲したら一層佳作となるてせう

濱の夕　東京　佐野くに子

潮霧つゝむ島山の
磯の松風そよそよと
ふくもすゞしや
いさりぶれ
月をやどして
ゆらぐなり
すみ繪のごとき
松原も
雲にとざして
冲とほく
ふなうたおかし
夕なぎに
餘韻かすけく
月笑ふ

評　おとなしき歌、

○　越中　永井ちよ子

岸のあをやぎうちなびき
たもと涼しき夕まぐれ
よせてはかへす浪の上
なかれてのぼる月の影
夏の夕にきて見れば
月も心も隅田川
そらにしられぬ秋風に
晝のあつさもわすられぬ

評　大した瑕はなし。

選外佳作　△海邊立秋　鈴木まつ子△西山數子△ひろれ　竹林秋子△折にふれて　八木清子　以下略す。

●●耳鼻咽喉病
美形隆鼻術
一回ノ注射有効確實(施術午後二時後)
九段阪下御嶽教會ノ裏通
大學病院辭職 和田醫院
和田昌訓

腦病 精神病 神經病
東京府下○龜戸町
かめゐど停車場ヨリ約十丁
加命堂腦病院
電話浪花二五三
院長 奈良林淺次郎

小兒科專門
腺病質(瘰癧症)
小兒體胃腸障害(脾疳)
腹膜炎(脹滿)
小兒皮膚病
ドクトル メヂチーネル
長井岩雄
東京日本橋數寄屋町(呉服橋外)電本百八十

婦人科産科榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎 婦人科産科 毎日午前診察
副 醫學士 久保徳太郎 婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代謹二 婦人生殖器病及内科 一般泌尿器病
●施診火木土自午後一時至二時 科一般火木土午後診察
麹町區三番町三三(電話番町三九五)

俳句

内藤鳴雪選評

天　名月は才子佳人をてらしけり　東京　武田　つる

評、比翼之鳥、連理之枝

地　出る舟の一帆〳〵や夏の月　下野　黑須　輝子

評、雲斂山骸青一髮

人　神主の直垂白し夏の月　下野　黑須　菊子

評、六根清淨

秀逸

短夜や明けて涼しき戸一枚　東京　秋元　小菊
名月に何煮る宿の薄煙り　京都　安井千鶴子
田草とる乙女の笠に蜻蛉かな　靜岡　齋田とめ子
松風に心太賣る女かな　岩代　長谷川よしの
一と卷の機織りあげて涼み哉　本所　中山　由子
朝風にゆれて涼しき青田かな　愛知　下郷すゑの
裸馬逐ひこむ川や夏の月　東京　彦坂たき子
西日さして松影涼し夏座敷　下野　黑須　輝子
明月や小犬は道に蹲る　東京　小田ゆかり
土臭き墓場の道や百日紅　横濱　上杉　らく
鐘淋し月は昔の寒山寺　東京　井上　幸子
行き止る京の小路や夏柳　東京　保坂　芳子
名月や笛は彼方の木立より　京都　田中　久惠
裏畑に百合多く咲く月夜哉　東京　栗山てい子
川舟の蚊遣りの声の一と嵐　東京　中山　正子
蚊もうしや蚊遣も憂しや夏の宿　山城　古川　よれ
聞きなれて吹かれは淋し萩の風　仝　人
日盛りや地にいるゝかの松の影　三重　西山ひさえ
住み捨し古人の庵や虫の聲　東京　松田　重子
走り穗の早稻の一壟や夏蹲　長門　鷹田　眞子
秋風に身を任かせたり赤蜻蛉　東京　牧野　元子
名月や木立を洩るゝ琵琶の唄　仝　三宅ひさ子
兎や角と過去の涙や土用干　岡山　淸水　梅子
初秋や乙鳥高う空をとふ　備後　世應　鐵子
名月や水田にうつる人の顔　岡山　坂田　元子
秋暑しかけ古したる繩すだれ　越中　永井ちよ子
夕月や亭々として夏木立　三重　西山　數子
ゆら〳〵と月に波うつ青簾　東京　栗田ふさ子
川狩や橋ある方に月出つる　岡山　西村　長子
露振ふ破衣や嵯峨の片折戸　京都　つゆ　豬
夕月や坊主頭をなて廻す　大分　淸閑　女
柳散る窓や源平盛衰記　廣島　岡　かつ子

毛髪用パール

■家政欄に支那料理の事記載あり、支那の料理を好みますから、御尋ね致ます。何か誰にても解るやうに能く說明した支那料理の書籍はありませんか、代價も併せて御報知下さい（福岡縣早良郡幹事部内より）

▲支那料理の本は是ぱと讀者諸姉に御勸めするやうなもの無之候、只た一つ實用支那料理法と云ふ書物あれど、說明甚だ不親切にて役には立つまじく候此頃小生等の手にて「日本の家庭に應用したる支那料理法」と云ふもの著述致し居り候、小册子なれど十分役に立つやうのものと信じ候、これが出來るまで御待ち下され度候先は御返事まで（津川生）

■暑さ烈しく候折柄、記者御一同樣の健康を祈上候。（瀨高やす子）（金原直子）（鈴木松子）（阿部秀子）（末田貞節）

▲難有御座います。編輯局同人等何れも無事に暮して居りますから、御安心下さいませ（編輯局より）

■女德論叢懸賞繪葉書の當選として、奥村五百子肆傳御送與彼下難有御禮申上候かしこ（小竹わき、末田貞節）

■園秀百佳選へ當選の賞として、名流の短册御送り下され難有御禮申上候かしこ（古川よれ、金原直子、阿部秀子）

■懸賞文苑に當選の由にて、美事なる品々御送り下されうれしく存上候かしこ（瀨高やす子、爲田よしの、鵜岡とく子、久保石子、金田つるえ、安井千鶴子、中山正子、十合貴美子、佐野くに子）

■長谷川よしの樣おなつかしいわ、今そこ四百里遠き東と西御目にかゝる事も出來ませんけど、岩代とは胸にやさしくひゞく故郷の名で御座いますわ、かた時も忘るゝ暇のない戀しき國にたのしき朝夕を御送り遊ばすかと思ひますと、おなつかしくてたまりませんのよどうぞつまらぬ私てすけど、御同郷のよしみに以後は御交際を願ひます。私の住所は記者樣に御尋ね下さいまし（瀨高やす子）

▲手紙の御交際は面白くて宜いてせう（記者）

愛國叢書第一篇

女德論叢

▽懸賞繪葉書附◁
▽殘部は少部數なり◁
▽定價金二拾六錢◁
▽郵税金四錢◁

愛國婦人發行所

曇りなき鏡はクラブ洗粉愛用者の高尚なる素顔を寫して第一に其特色を示す

永く使ふほど素顔の美しさを増すはクラブ洗粉の大なる特色なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

編輯局同人選評

一等

露 東京 小田ゆかり

垂れこめて久しく訪れ給はぬそれの君を誘うて今宵靜けき月にそゞろありく。二つの影は露しげき草の上に、蟲の聲はあたりにかごとがましう。靜かなる夜かな、あはれなる夜かな、友はいたう深くも低首れて、多くは告げ給はざるその胸のおもひ。露をおびてか、月はいとゞ冴えに冴えて只管この君に光を集めつ、あふぎみし友の眸にもあはれ露の玉いくつ、はふり落ちし熱きその露は草の露に。

評 少し厭味のある書き振りなれど、賞揚すべき情趣あり。

二等

夏の夜 香川 瀬高やす子

おや涼しい事、湯あがりの頬に千金の風、籐椅子に寢ころんで被居した兄樣が大變美しくなつて來たな、夕顔が見劣りするよ、あら兄樣知らないわ、一寸にらむまねして母樣のお傍へ倚ると、之は大變御機嫌を害ねた、ほめて怒られた日にはまい、しよくに合はぬと妙な身振りを遊ばすのでつい吹出してしまつた。

評 瀟洒併せすぐれたり。

又曰 本號文壇殆んど作者の獨占に歸す、盛んなりと云ふべし。

三等

萩を見る 東京 佐野くに子

裏山の萩やさかりと爺のことばに、朝まだきより妹とつれだちて野路を行く、數町にしてわが山に至れば、老松は昔乍らのしらべ床しく、萩の蕾の露ながら枝折らんとするに、照る日の光に色そへてあでやかなること珍だからのごとし、右と左に萩をもちつゝ、歸れば野良に行くとふたわやめに出逢ひぬ。にこやかにさは含羞みて會釋するを、見ればあな昔の友。

評 全篇引締りて難なきを採る。

佳作

野菊 因幡 横沼榮喜

今日桑摘みに行きますと畑の境に野菊が一輪咲て居ります、そして白い玉露をなみ／＼と湛へて居るではありませんか、何といふ可愛らしさでしよう、やがて白い蝶がひら／＼と飛て來て、露も散らさず止まりました、私も只夢中にその香を嗅かふとしますと蝶はとんで露ははら／＼と散てしまいました。(日記の一節)

評 此れ以下は却て書かぬ方が宜しい、露を散らしたのは誰が罪かと云ふことは、説明する迄もない事ですから、

お手が出る 大分 桂木文子

來春某校を卒る筈の夫の許より暑中見舞にとて、カステラを送られた、早速玉露で賞味しやうと、兄樣の所に持て行けば、お人の惡い兄上、二つと笑つて文ちやんうれしいか、となぶり給ふ。そんなことおつしやるならあげませんよと、引こましにかゝると、早くもお手はカステラの上におはすおかしさ、

評 規則の十行以内といふことを忘れてはいけませんよ、序に他の諸姉にも申して置きますが、十行以内と云ふのは百八十字以内のことです。

夏の夜 廣島 金原直子

眠られぬまゝに逍遙ふ夏の夕空には、輝く星の色、足にはこぼるゝ露の數々、折から草かくれ流るゝ小川に足ひたせば涼風そゞろに袖をなぶるこそうれしけれ。

評 常よりも見劣りせり、暑さにあたりて病氣なやし給ひけむ

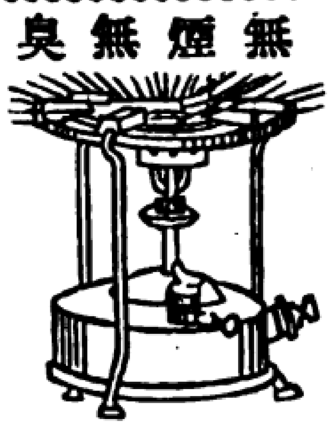
■夕涼 西村昇子■少女 三宮野露子■月 小林龜子■西山ひさえ■勝香 保芳叙子■猛草 山内緋子■夜 阿部秀子■桔梗 小島某女■つゆ枯■楓 大橋欧子■衣の川 竹林秋子■秋 中山市子■山崎露子■秋思 長谷川吉野■永井千代子■三上八重子■夏の夕 窪田とめ子■恩師 安久春子■以下略す(△印は就中秀逸)

阿部彦四郎商店

東京淺草茅町淺草橋際 長電話下谷一九一二三

特許 富貴竈

スイーデン國製 石油瓦斯コンロ 無煙式日綿遣品



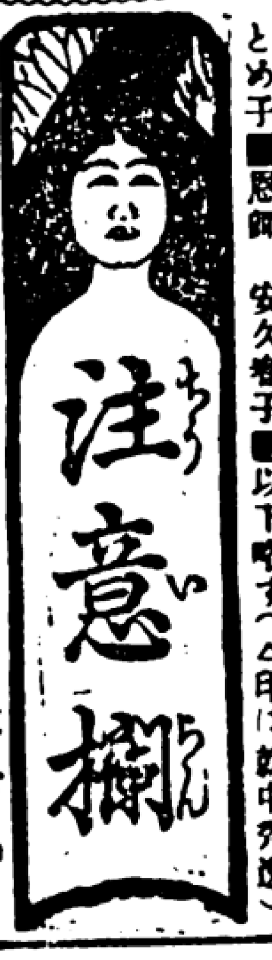
無煙無臭

化學作用にて石油が瓦斯となり其火力猛烈一升の水五分間に沸騰し一時間の燃消僅か五勺にて足る經濟的コンロ

東郷大將邸御常用

日本一の オペラ香

發賣元 東京日本橋區米澤町 鳳舞園



最近佛國歸朝新派女俳優の鼻祖マダム

川上貞奴の 美人となる西洋忍化粧談

日本の御婦人は御化粧をして其儘見せますが之に反して歐米諸國では化粧をして化粧と觀せず天然の美の如く觀せますのに重きを措ます先年マダム川上貞奴が佛國より始めて日本へ輸入させたのがNatal Beauty と謂ふ西洋忍化粧料

・ヤ・ツ・コ・

であります此のヤツコで一寸と顔を洗ますと忽ち薄化粧となり色を白く艶を出し顔の小皺をのばす白粉や、洗粉抔で素顔を奇麗にしたのとは大に趣が違ひ眞に天然の美の如く觀せる常に用ゆれば日本で俗に謂アクヌケノシタル顔色となることは最も特色とする所でありますす論より證據使用て御試しください今や薄化粧の時期東京、横濱、名古屋、大阪、京都、神戸市内を初め全國到る所の小間物店賣藥店の賣れ行盛なりと云若し無き場所は日本一手發賣元東京神田御成道田代町九番地田中丹治方へ宛て振替貯金四五三九番にて送金すれば急送す、定價壹罐二十錢送賃四錢●三罐箱入六十錢(西洋男女化粧法美本附)送賃十二錢

有數の同數類中完全なる製劑にして最も安全なるは左に掲ぐる千代ぬれ羽有るのみ

警視廳免許 登錄商標

本品は多年の研鑽を經發明せし精微なる化學的作用の製劑なれば在來の白髮染と異り又かの不廉なる西洋白髮染に優る事數等なり本品を以て白髮赤毛を染むる時は半ヶ年餘を保ち奏効靈狀日々多大なり

其の二三の効用を擧ぐれば

本品は如何なる白髮赤毛と雖も容易に深黑ならしむ

本品は頭いたみ、毛切れ、ぬけ毛等の憂ひなし

本品は手拭紙など卷き置く手數をはぶく

本品は染付け後何油を使ふも髮のかたまるうれひなく優に數ヶ月間を保つ

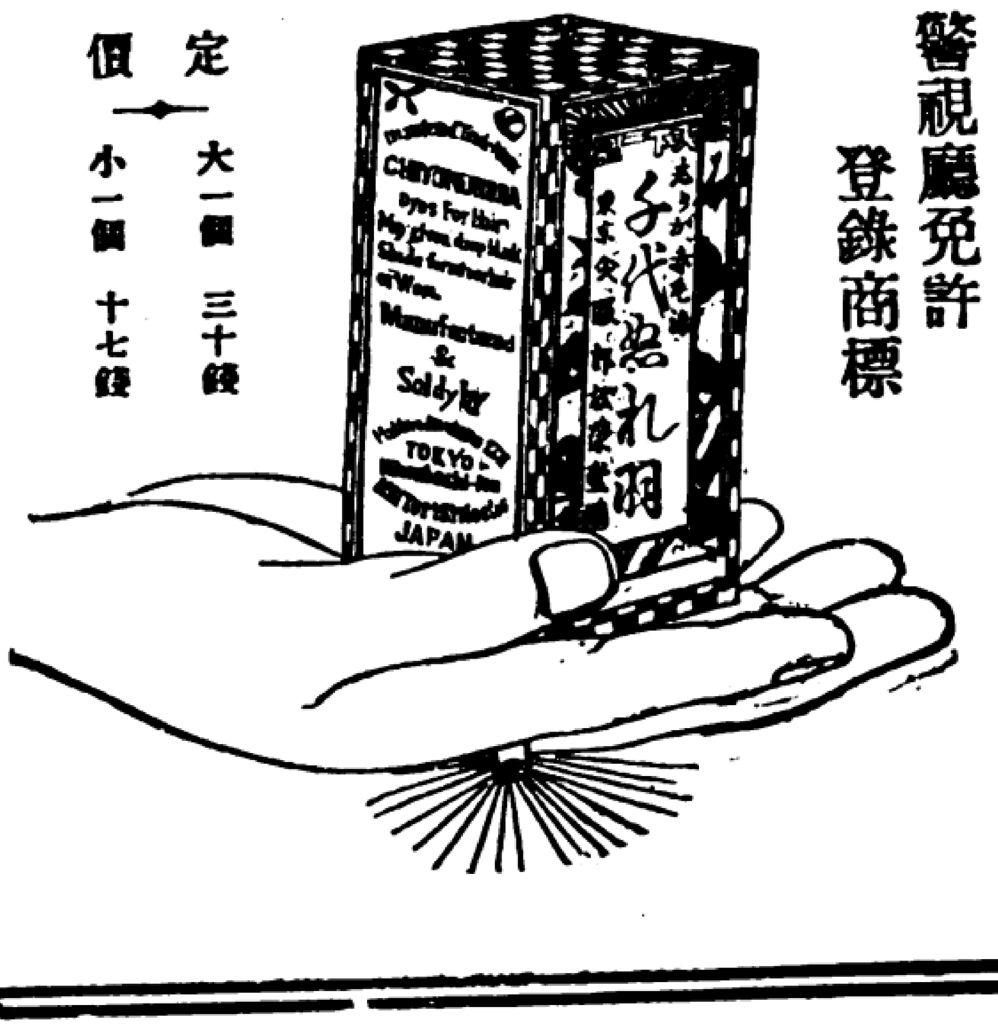
本品はお婦人かもじ入毛を染むるも又妙なり

本品は用法最も手輕にして且つ又實用と安全とを兼備せり

◎販賣は全國到る所の小間物化粧品賣藥店に有之候

◎御買求の節は特に「千代ぬれ羽」の五文字に御注意願上候

定價 大一個 三十錢 小一個 十七錢



本舖 東京市日本橋區通鹽町一番地 松榮堂 服部重右衛門

長電話浪花二一七五番 振替貯金二一八六五番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前田曙山氏著

◀小説▶ 紅露

悍婦の賓頭奴が巧みに媚術を弄して貞淑夫人を欺き高德の尼公を弄び勇家の富を奪ひて飽ず敵國の爲に友人を賣り志士を居終に俠義なる美人の匕首に殪るゝ迄讀者をして或は泣かしめ或は怒らしめ不知不識作中の人と同化せしむ結構の雄大と實社會の機密とを描出せる點に於て近來稀有の大作也

▶口繪鰭崎英朋氏畫◀ 實價六十五錢郵稅八錢

小山内薰氏著

◀小説▶ 窓

◎四六版全一册紙數三五〇頁◎

目次

▲病友▼ ▲騎兵士官▼ ▲敗者▼ ●掏摸● ●追悼文● ●侮蔑● ▲空腹▼ ▲醉人▼ ▲手▼ ●姉妹● ◎青泊君…留任運動…色の褪めたる女

岡田三郎助氏意匠頗奇拔　實價六十五錢郵稅金八錢

發兌（東京日本橋通四角）春陽堂 ●振替貯金口座一六一七番●

煉香油 かほり　東京 井吾

新刊

▽宇宙觀　文學博士 三宅雄次郎
△現今の哲學　金子馬治
▽雌雄の起原及進化　理學博士 丘淺次郎
最新思潮講話 全一册 定價 壹圓
▽近世美學上の問題　島村瀧太郎
△ハムレット講話　文學博士 坪内雄藏

發兌元 京橋區南鍋町一丁目 隆文館

資本金 壹千萬圓

釀造元 日本醬油釀造株式會社
東京深川小名木川通
電話浪花 一五九五番 三七七三番

甘露醬油 ニツポンヤメヅ
天下一品 ニツポンツマ
最上醬油 ニツポンジフ
最上醬油 ニツポンシヒ

●最上醬油以下 數種あり

特約販賣店
合資會社 日本醬油 東京販賣所
東京日本橋區北新堀町
（電話浪花長一四六番）
東京酒類問屋組合
其他
酒醬油仲買店及各小賣店に於て販賣致候

宮崎葡萄液

葡萄の有りの儘なの汁にて酒精分は固より毫も防腐劑を混ぜず而かも香味卓絶何人の口舌にも適す眞に飲料界の覇王也

宮内省御用達

發賣元 東京日本橋通旅籠町 甲斐産商店

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

高峯氏發見消化新劑

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、每瓶强度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彦！模造品製造者の誇大なる虚僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賓品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徴し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

社告！！

本誌掲載の廣告を見て當該廣告主と取引應答せらるゝ際は、其旨御申添被下度願上候　敬具

九月五日

愛國婦人發行所

下田歌子女史題歌　東京造花校主幹 塚本鐐吉氏著

最新造花術

▲洋裝頗優美▼ ▲菊判上下卷二册▼ ▲定價各金五拾錢▼ ▲郵稅金八錢▼

本書は著者が多年の實驗により案出せしものにして、誰にも分り易く、且面白く學び得る樣に述べたもので、啻に獨習用ばかりでなく、敎師及學生には無類の良參考です

本書の特色

一 趣味と實益　花に關する詩歌、表情及内外の興味ある話等を述べて無量の趣味を喚起せしめ自ら花の形態及特性等を知得せしむるなど實益鴻大。
二 最新の技術　新案の方法で和洋の花卉につき嶄新且完全なる切形・染め方器具使ひ方及巧妙なる仕組め方等を頗る手順よく圖解を示して親切周到。
三 實地の應用　嶄新なる花簪婦人胸飾花・歐米新式を斟酌せる花束・花輪・香水入り花、電燈花の造り方花籠の盛り方並内裝飾其他の應用法。

口繪　美術着色版 一葉　光澤寫眞版 三葉
挿繪　切形 五十種　圖案 廿五種
紙質　優等印刷鮮明

斯樣に内容が豐富で、取材が多方面ですから一般家庭に備へて頗る重寶です。殊に同好の人は時勢に後れない樣に必ず本書を繙かれよ

發行所 東京京橋區南傳馬町 振替貯金二八〇九番 目黑書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

水原産科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ産婆學校アリ

峰内科醫院
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長ドクトルメヂチーネ 峰秀世

女子文壇
九月號發刊　價送共拾壹錢
此雜誌を讀まざる女子は共に文學を語るに足らず
春季懸賞作品募集
○各種懸賞正金懸賞
發行所 東京京橋 女子文壇社
賣捌 全國書店

（米）
合名會社 森村銀行
東京市日本橋區通一丁目
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番
定期預金　六ヶ月以上　年六分五厘
當座預金　百圓に付日歩　一錢
小口當座預金　同日歩　壹錢參厘

誠實と穩健は本誌の特色也
女學世界
九月一日發行 拾壹號　一冊廿一錢 郵稅二錢 前金一圓八十錢 稅共一圓六十錢
◎學校出のお嫁さんに望む　棚橋絢子
◎癖に囚はれたる婦人　紅淚女史
◎内所で書いた嫁の日記　月待女
◎學校教育の誤解…安部磯雄
◎商人の妻の働きぶり…わくら葉日記…さわらび
◎鎌倉見聞記…政子
▼醫學上より見たる白色法　糸左近
○老婆心の過ぎたる育兒法……
○生存の困難に處するの法……
◎貴婦人の半面……
◎夏子の誕生日……
◎子供の教育に就て我が家風　三宅花圃
◎誤解されたる淀君　山路愛山
◎女事務員となりし私の經驗　齋藤まさ

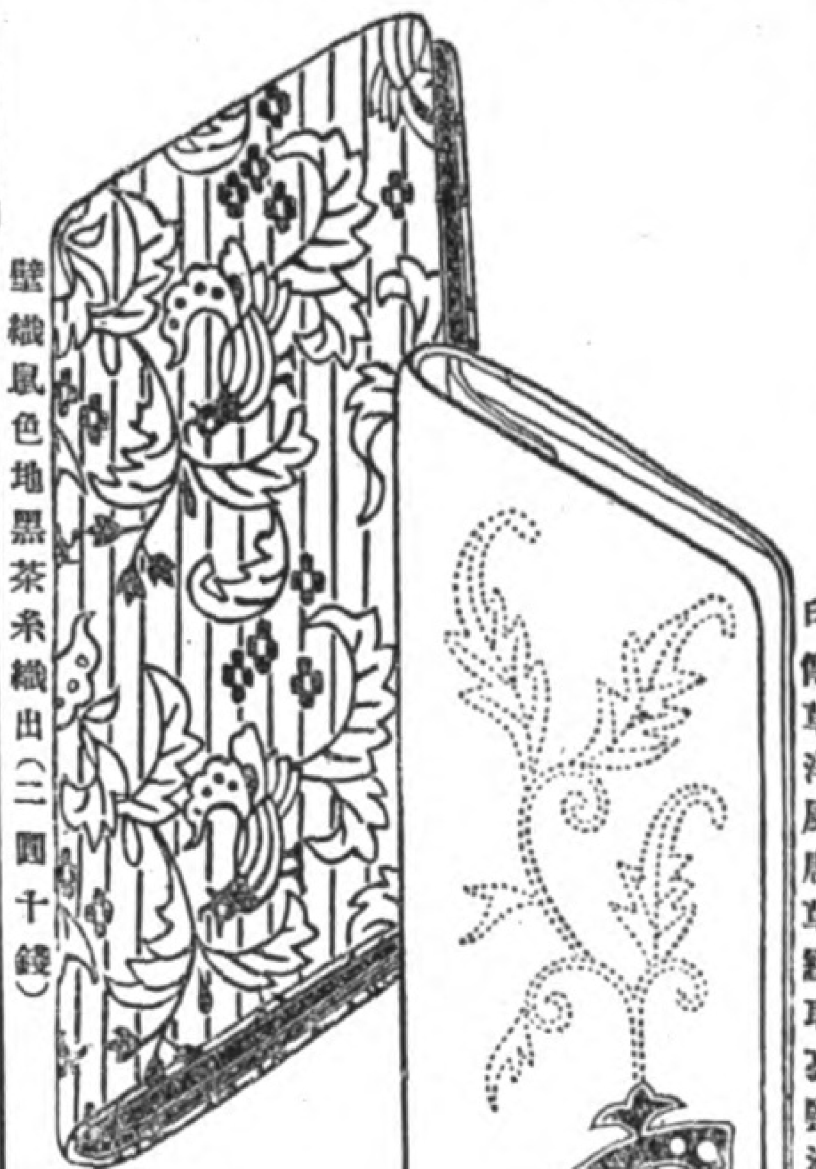
何故に本誌は愛讀者最も多きや
少女世界
九月一日發行 十二號
○正價十錢 郵稅一錢 ○前金四冊四十錢 八冊八十二錢（？）
▽寫眞：上田長野聯合少女會○愛讀者の面影○少女の集會
▽口繪小說 白芙蓉　彩色石版 野の秋　彩色石版
▽小說 天の橋姬　小波 巖谷
▽少女小訓　小波 巖谷
▽寶石の種類　小舟 木村
▽唱歌 秋來ぬ　花袋 田山
▽海底の女王　江見水蔭
▽露の子旅行　押川春浪
▽訓話 虫飼ひ　石橋思案
▽特別懸賞文　披露
▽毛糸編物 花瓶敷

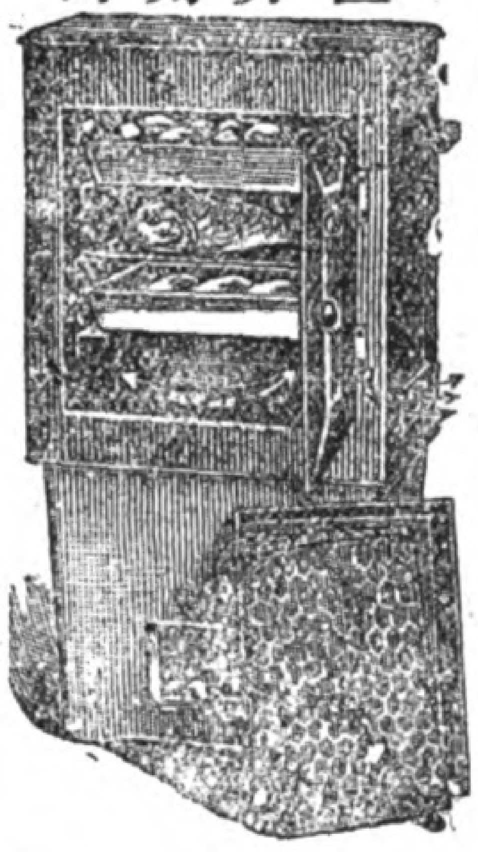
▷○▷○▷（東京）博文館（本町）◁○◁○◁

内科 外科 産科 婦人科 耳鼻咽喉科 皮膚科 梅毒 泌尿器科
各專門分擔
東京病院　芝愛宕町　電話新橋（二六四）（二二六二〇）
院長 醫學博士 男爵高木兼寬

内科一般
東京神田美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番
板垣亨

齒科治療
麴町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）
ドクトル 齋藤清太郎

男持御紙入

壁織鳳色地黑茶糸織出（二圓十錢）
印傳草洋風唐草鏈取裏鹽瀨（四圓五十錢）
東京銀座尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎

家庭の重寶
世界好評

專賣特許 名和式蒸燒器（一名テンピ）
在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋割烹に最適當の器なり、
大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢
（説明書往復はがき）
東京市日本橋區蠣殼町二の一五
名和商店
電話浪花一二七七　振替貯金一〇二五四
到る處（金物店洋食器店）にあり

理想の婦人
深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏なる婦人

愛國
家庭にあり又交際場裡にありて常に清涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし

◎主効
◎頭痛◎眩暈◎氣鬱◎舟車醉◎時候傷◎水傷◎食傷◎消化不良◎口熱◎口中惡臭◎其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種惡疫を豫防す。

定價 百粒入廿錢 四百粒入壹圓 廿五粒入十錢 五十粒入卅錢 百六十入器入廿錢（？）
東京 馬喰町二丁目 山崎榮三郎
大阪 高麗橋二丁目 愛國堂 山崎兄弟商會

内科專門
神田區駿河臺 電本一六六九
杏雲堂醫院
院長醫學博士 佐々木政吉

●**外科**
午後往診 夜間診療
本郷區元町一の十四（淨水地西南隅）
醫學士 三原新太郎

東洋内科醫院
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
電本 八八八（病院用）八九八（私宅用）
院長 醫學士 高田畊安
院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前窮者施診火木前入院診斷隨時應需松田、林、兩副長は目下當院に在勤

南湖院
神奈川縣高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

産科婦人科專門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩國病院

大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時 至正十二時
内科婦人科　院主 岩佐純
内科　院長 ドクトル 岩佐新
外科　醫學士 山村正雄
産科婦人科　醫學士 西村漸
腦病脊髓病　醫學博士 土田卯三郎

女子正則英語學校
生徒募集
來ル九月十日授業開始補缺生募集願書九月七日迄ニ差出サルベシ規則郵劵貳錢送レ
神田錦町三ノ一警察向
正則女子英語學校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何故日本一か　九月の少女の友は

本誌を讀で居る少女は……
▲心うれしくなり……
▲氣がやさしくなり……
▲行儀がよく……
▲種々なる癖がなほり……
▲人に褒められます……

少女の友

◎口繪　久邇宮少女王殿下△女子大學幼稚寮少女其他數枚
◎珍奇美麗　◎編物　◎遊戲
◎友達から除け者にされし松井さんのお話……星野水裏
◎伽噺　衣裳持で餘した鈴子さん……與謝野晶子
◎先生を思ふ少女の愛らしき手紙（山脇女學校長への手紙）
◎歐米の少女から貰つて來た土産話◎小説『一人ぼつち』
◎少女　萬難を排して王に拜謁す
▲懸賞　字さがし　歌つなぎ

九月一日發行　壹卷第八號
一冊拾錢郵税壹錢　六冊六拾錢郵税共　十二冊壹圓拾六錢

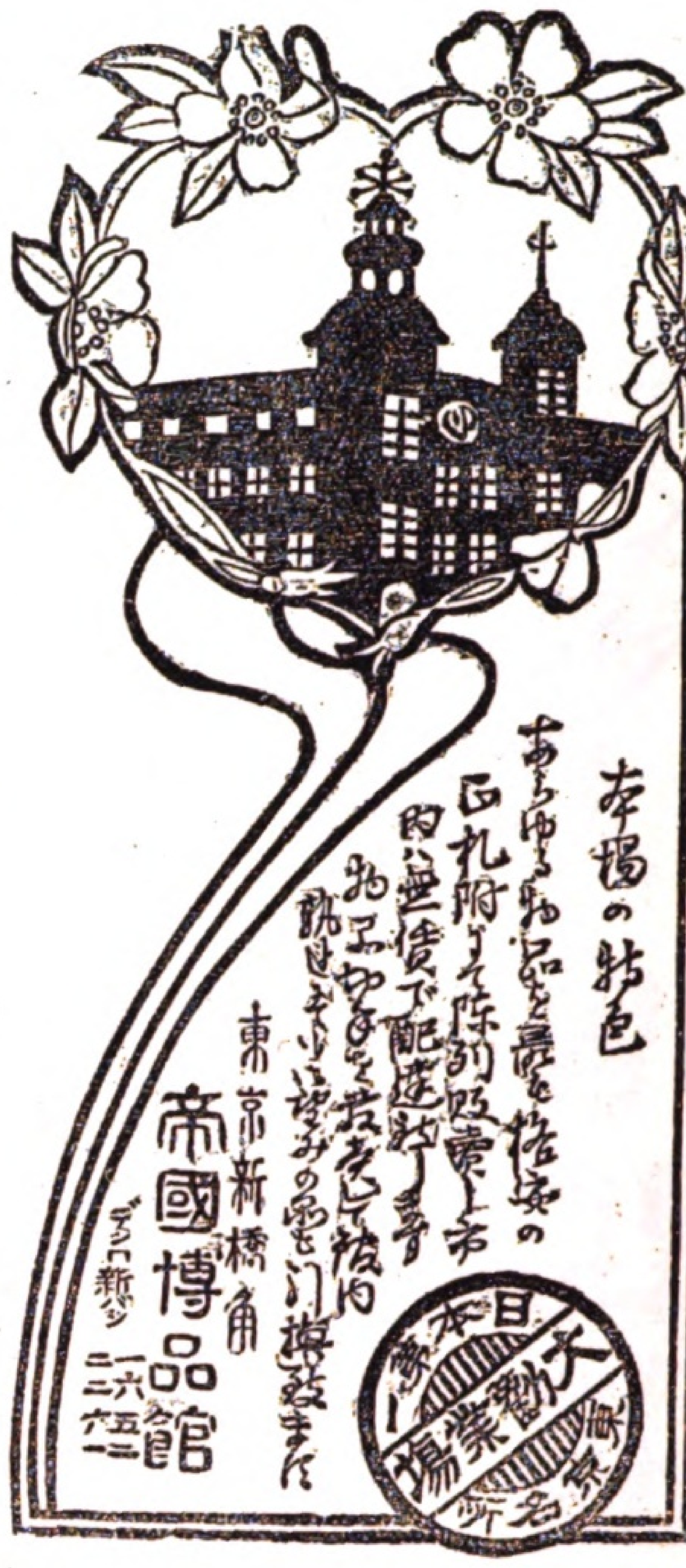
大飛躍の本誌は婦人界の大問題を悉く解決す

婦人世界

◉九月一日發行 二號十冊 金拾五錢 郵税一錢 六冊九拾錢 共

▲嫁と姑は何故に仲惡しきか……村井弦齋
▲我が家にける育兒上の實驗（加藤博士）
▲姙娠中の病氣の注意……榊博士
▲鼻を治して眼病の全治したる實例……
▲弦齋夫人料理談
▲古今文藝談……白水
▲私の讀書法……岡田
▲女學生が友達より感化され……實例一……女學館講師藤崎常子
▲私が卅歲の青年ならばどんな妻を望むか……佐治實然
▲私が先妻を離別し持參金と結婚せし軍人……戸川殘花
▲新婚旅行に依りて得たる利益……辯護士婦人平出禮子
▲他家を訪問して不快に感じたる事
▲小兒の齒は如何に注意すべきか
▲初めて西洋風の結婚式を擧げたる人……
▲二尺八寸の布で前掛が出來る……
▲我が子のために如何なる嫁を望むか……鳩山春子
新案懸賞募集　▲日本服は何處へしるしをつけて隱るべきか　▲其他每號新題十餘種……

東京京橋南紺屋町十二番地（電話新橋七八四）　實業之日本社（郵便振替貯金三六二番）　賣捌各地書店



オルガン　西川製
目錄進呈

樂器
十字屋
書籍
振替貯金口座七一五八
平圓盤發音器
東京銀座

定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢
東京本店 堀内伊太郎 大坂支店
取次全國藥店

ちゞれ毛赤毛の人に告ぐ
二瓶一組小册錢中五拾錢大一圓前金無送料代金引換注文は廿二錢中受、取次人申込該液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黒き光澤を發し美麗なるは鳥羽の如し而して永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵券貳錢送れ
毛染所　東京京橋區本材木町三ノ四　岡田商店

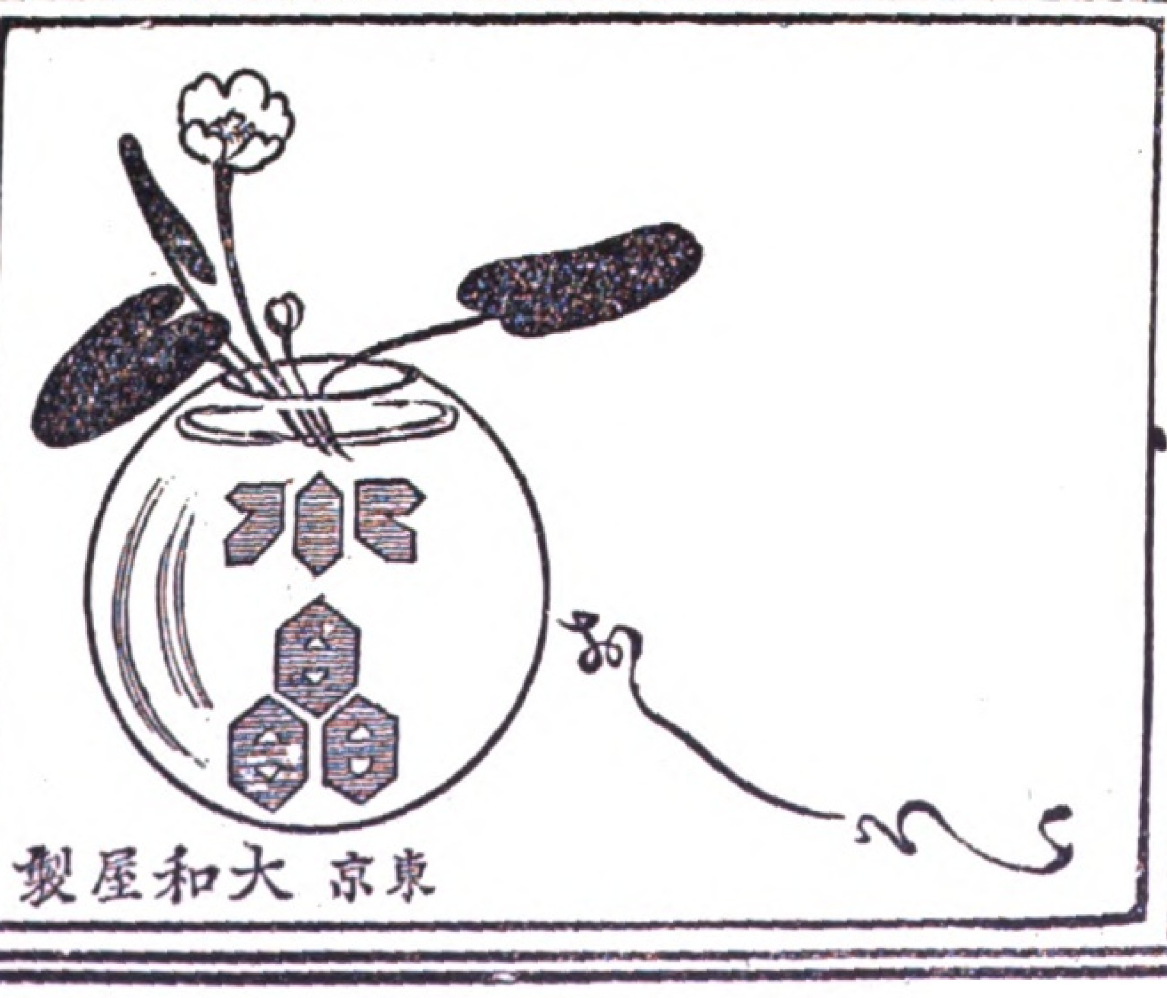
◉婦人病專門
芝明舟町十九虎門外宮樣前　電話新橋三三二四
院長　櫻井克己
櫻井醫院

耳鼻咽喉病診療
入院應需
淺草區向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り　電話下谷壹壹三〇番
中村醫院

院長　醫學士　鳥山南壽次郎
午前診察　午後往診
京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番
鳥山內科院

皮膚特効美白新劑
チプリ化粧液

小瓶三十グラム入　金貳拾五錢　送料四瓶迄八錢
◎本品は西暦千九百〇六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顔ノアレ」等に最も奇効あり
◎効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす
◎東京市內は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（四瓶迄）相添へ本舗へ御注文あれば直送す
日本一手販賣　東京日本橋區本石町　松澤常吉



日本興業銀行
東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）
電話本局 一、二八〇〇番　三、三〇〇〇番　四一一番　（特）三七番　一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

◉婦人科專門　午前宅診
◉小兒科專門　午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

○院長ドクトル木村順吉
婦人科產科　木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用 ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても採ずに必ず落る石鹼曾達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
●用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳號）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶し御てかもじを洗ふ樣に採ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効です

定價　拾貳號入　金拾五錢　六號入　金八錢　（袋入二錢）

英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ方香ワツセル製造元

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二　二友商會

めりんす友仙　お絹まがすりん　新形友禪品々

東京日本橋區人形町通り　赤のれん　おもちや

電話浪花四三九五

資本金八百萬圓

東京京橋區木挽町　株式會社 十五銀行　電話新橋 三三〇〇番 一五三〇番 一九三三番

同日本橋區新乘物町　同 日本橋支店　電話浪花 一九〇一番 二七〇四番 三五〇八番

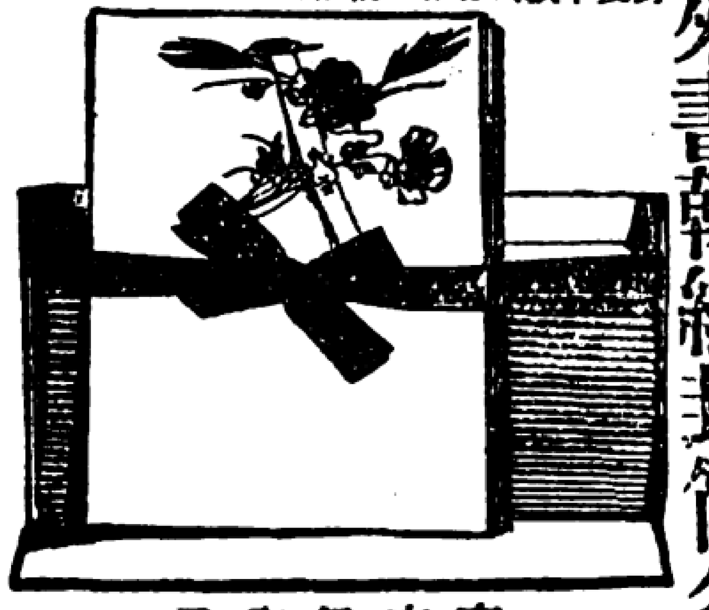
一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　…

御進物最適品

封皮中紙共各廿五枚入箱廿錢付以上三圓迄

船來書翰紙封筒各種　レツターペーパーエンブロップ

東京銀座三　伊東屋　電新二七一六振替五一一一



金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷（特九六五番）（一二四四番）

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士令夫人所三る者に困難し
人より奇藥を得毛も濃くなり生へざ
迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せ
百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困
へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

最上醬油

最（チ）上（カ）醬（、）油（サ）

品質ハ　ヤマサ印ト　少シモ　異リナシ

發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衛門

釀造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衛

宮内省御用達

最上醬油之元祖

開業貳百六拾四年

釀造元　下總銚子町　濱口合名會社　振替貯金口座五〇貳參番

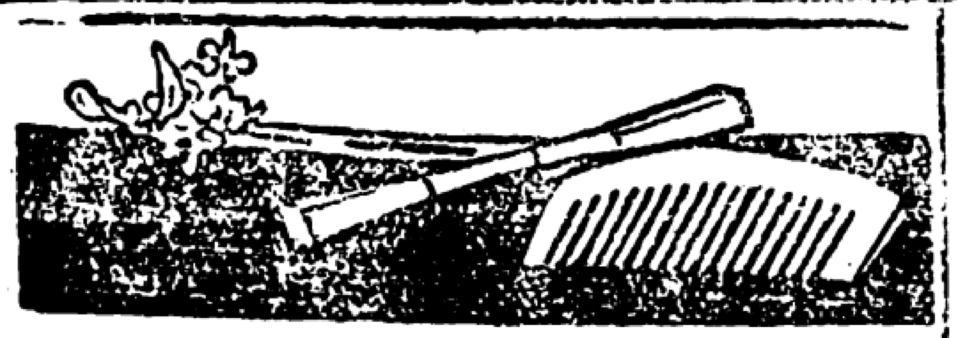
最上醬油　キハク印

於姫路博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　信號（キハク）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　電話浪花五七七四　中野長兵衛



愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸社
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜舍
京橋區日吉町　帝國通信社
同區瀧左衛門町　同
同區南鍋町
京華社支店　廣告社

明治四十一年九月五日發行（毎月五日廿日二回）
（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）（廣告料一行金六拾錢）
編輯人兼發行人印刷人　山澤俊夫　持田德一
發行所　東京麹町區飯田町
發賣所　同京橋區南鍋町　株式會社隆文館　愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄

愛國婦人會記事

〈愛國婦人會記事〉

△會　告▽

愛國婦人會韓國委員本部及同地各委員部に於ては韓國駐剳軍隊に對し慰問の意を表する爲め從來同部備附の活動寫眞會開催又は慰問品等の寄贈をなし來り居候處近時暴徒討伐の爲め各地駐在將卒及憲兵が昨今の雨期と酷熱の際を幾多辛苦艱難を意とせず國家の爲め盡瘁しつゝある現狀に對し同本部に於ては一層の同情を表し慰問の爲め紀念繪葉書を調製し駐剳軍司令部の手を經て寄贈する由を本會に通牒し來り候本會に於ても頗る美擧と相信じ候間右韓國本部美擧援助として相當慰問品本會より寄贈致度候間會員諸氏に於ても此際奮て同本部の爲め本會へ金品御寄贈相成度本會に於ては寄贈の金品を取纏め贈付手續可致右廣告候也

追而本文金圓は拾錢以上、物品なれば凡そ十五六錢以上の慰問袋を望む受領證は本雜誌に掲載の外別に出さず締切は九月三十日限とす

愛國婦人會

慰問袋寄贈

韓國駐屯軍隊及憲兵警察官等に對し、本會より慰問袋並に繪葉書を寄贈する筈の處、客月廿八日迄に通知を受けたる寄贈者の氏名左の如し

慰問袋數	繪葉書數	職名	氏名
三五	一六〇	會長	公爵夫人 岩倉久子
三〇	一五〇	副會長	公爵夫人 一條悅子
二〇	一〇〇	理事	公爵夫人 德川泰子
二〇	一〇〇	同上	公爵夫人 大山捨松子
二〇	一〇〇	同上	公爵母堂 近衛貞子
二〇	一〇〇	同上	公爵夫人 島津田鶴子
二〇	一〇〇	同上	公爵母堂 毛利安子
二〇	一〇〇	同上	侯爵夫人 鍋島榮子
二〇	一〇〇	同上	子爵夫人 岡部抵子
二		同上	子爵夫人 谷玖滿子
二〇	二五	監事	伯爵夫人 伊東美津子
二〇	一〇〇	評議員	公爵夫人 九條惠子
二四	一二五	同上	侯爵夫人 池田亨子
一五	七五	同上	中山幸子
一〇	五〇	同上	子爵夫人 戸田時子
一〇	五〇	同上	佐藤猶子
一〇	五〇	同上	山脇房子
一〇	五〇	同上	男爵夫人 濱尾作子
一〇	五〇	同上	有島幸子
	自員一五〇枚	同上	鳩山春子
一〇	五〇	同上	男爵夫人 闘郎子
一〇	五〇	同上	男爵夫人 福島貞子
一〇	五〇	同上	男爵夫人 大藏松子
	八〇	同上	子爵夫人 松平雅子
一〇	五〇	同上	子爵夫人 原禮子
一五	五〇	同上	前子爵夫人 岩倉梭子
一〇	五〇	同上	男爵夫人 松平須磨子
一五	五〇	同上	男爵夫人 千家俊子
二〇	二五	同上	伯爵夫人 黒木百子
一五	五〇	同上	子爵夫人 清浦鍊子
一〇	五〇	同上	子爵夫人 井伊増子
七	一〇	東京支部幹事	後藤わか子
五	一〇	同上	小野ヨシ子
五	五	同上	榊實子
五	二〇	同上	井上むつ子
五	一〇	同上	東村崇子
一〇	五〇	同上	原久子
一	二	同上	碇江規矩子
一	二	同上	伊藤美代子
一	二	同上	山田いく子
三	一	同上	秋間タメ子
一	三	同上	青山幸子
一	五	同上	清水はな子
二	一	同上	石崎つる子
二	一	同上	細谷柏子
二	一	同上	中野仙子
一	五	同上	増永德衛
一	五	同上	有賀貞子
一	五	同上	高田民子
一	五	同上	堀江貞子
三	一	同上	三枝よね子
二	一	同上	關萬代子
一	五	同上	濱みね子
一	五	同上	長谷川小枝子
一	三	同上	岡本きみ子
一	五	同上	渡邊げん子
一	五	同上	中村康子
一	三	同上	牧田ます子
二	一	同上	前田とみ子
五	四	東京會員	堀内常子
五	四	同上	佐藤秋子
五	四	同上	熊谷易子
二		同上	渡邊るい子

因に右寄贈品は本部へ委託されたるを以て慰問袋は本部に於て調製し、繪葉書は韓國委員本部に於て擔當したる三越商店調製の二枚疊組にして、一枚は本會總裁殿下の御肖像と岩倉會長の慰問の辭、一枚は伊藤統監と長谷川軍司令官の肖像入りにして頗る美麗なる品なり但一組の代價は金二錢五厘也。

□監事囑託　公爵九條道實夫人惠子氏は客月中本會監事を辭せられしに就き、同廿三日新に伯爵伊東祐亨夫人美津子氏に對し　總裁殿下より監事御囑託相成たり因に記す、九條惠子氏は今後專ら評議員として盡力せらるゝ筈なり。

□遊說員派遣　本會遊說員窩樫興喜子は九月一日より三ケ月間遊說の爲大阪支部管下に派遣せられたり。

愛國婦人會會員女子人口比較表

明治四十一年七月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	卅六年末女子人口	女子人口千人ニ付會員比例	贊助員
山口	二七六	九四一	一、二一七	一、〇四七	二七、五五四	二八、六〇一	二九、八一八	五〇六、九二〇	五、八八	一三
石川	四九〇	一、四六四	一、九五四	三七〇	一九、一六二	一九、五三二	二一、四八六	三八五、四七八	五、五七	六六
山形	一六六	八三四	一、〇〇〇	六一二	二一、一三六	二一、七四八	二二、七四八	四三九、六一八	五、一七	一〇四
廣島	四三五	三、〇三〇	三、四六五	一、一〇二	三〇、七六二	三一、八六四	三五、三二九	七四六、六六五	四、七三	九
愛知	四八八	一、一〇〇	一、五八八	一、八三三	三四、二一一	三六、〇四四	三七、六三二	八六八、五三八	四、三三	一四一
福岡	五〇八	二、二〇七	二、七一五	六九二	二九、五二〇	三〇、二一二	三二、九二七	七七二、七四三	四、二六	四
岡山	二三六	八八七	一、一二三	三九〇	二二、七五六	二三、一四六	二四、二六九	五七七、二七二	四、二〇	一二
兵庫	五四四	一、七四四	二、二八八	一、二五四	三三、四〇八	三四、六六二	三六、九五〇	八九三、七三四	四、一三	一八
島根	一〇八	三四五	四五三	三四八	一三、五五五	一三、九〇三	一四、三五六	三六二、六二五	三、九六	一
神奈川	四〇二	一、三四九	一、七五一	七四三	一七、二五二	一七、九九五	一九、七四六	四九九、六二三	三、九五	四二
京都	四六四	二、一二五	二、五八九	五七三	一七、三〇七	一七、八八〇	二〇、四六九	五二〇、三九五	三、九三	二一
愛媛	九〇	四五七	五四七	三二三	一八、五二二	一八、八四五	一九、三九二	五一一、三九六	三、七九	四七
富山	一二四	九三一	一、〇五五	一九〇	一三、一一一	一三、三〇一	一四、三五六	三八四、九八二	三、七三	五二
北海道及函館	三七三	二、八九四	三、二六七	四七七	一四、九一七	一五、三九四	一八、六六一	五〇七、六二八	三、六八	六三
香川	二一三	五九八	八一一	五一三	一一、一八二	一一、六九五	一二、五〇六	三四七、八九〇	三、五九	—
熊本	二八〇	二、六五一	二、九三一	四〇一	一八、四三四	一八、八三五	二一、七六六	六一〇、四一一	三、五七	一二
青森	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群馬	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福井	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大分	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長野	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩手	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
奈良	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
徳島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
静岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高知	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滋賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳥取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山梨	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
埼玉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新潟	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和歌山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
臺灣	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岐阜	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沖縄	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
韓國	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
海外	二一三	四七	二六〇	六八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	三八九
計	一二、七二九	五五、一二一	六七、八五〇	二六、二四一	六四二、六六七	六六八、九〇八	七三六、七五八	二三、一三三、〇四〇	二、九二一	一、五六三

備考
（一）支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す
（二）北海道及函館の兩支部會員數は合算して掲載せり而して函館支部會員數は特別五百十四人（終身六十二人年賦四百五十二人）通常千八百十九人（終身七十八人年賦千七百四十一人）にして他は北海道支部會員數なり
（三）韓國支部の報告は終身會員年賦會員の區別なきに付假に年賦會員の欄に掲載せり
（四）海外委員部の內北米合衆國桑港及シャトル館に布哇國ホノルヽは報告未着に付之れが調査を缺く

注!!　逸したる機會は　再び捉ふること能はず

奥村五百子詳傳　全一冊四六版洋裝美本　正價五十錢郵税（市内四錢　地方八錢）

意!!　既に僅少となりたる本書の殘部は此際至急申込にあらざれば悔ゆとも及ばざるべし

國民の寶典として家庭の好讀本として將た愛國婦人會の側面史として必讀を會員諸氏に奬む

申込所　愛國婦人會事務所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部近況

▽韓國本部近況△

□平壤委員部　去五月二日の委員部總會後に於ける會務の重なる事項左の如し、七月七日委員會を理事官々舍に開き、委員長副委員長以下各委員參集し、左の兩項に付協議せり

一、衛戍病院入院患者慰問の件

二、匪徒討伐軍隊慰問の件

右は何れも慰問袋を募集寄贈することに決定し、第一項は即日準備を了し、委員長病氣に付小城副委員長以下十名の委員は衛戍病院を訪ひ、北山院長を介して一二名の本院入院患者に先づ慰問袋（一袋七十錢に相當する日常必要品）を携帶寄贈し尙各分院に入院せる八名に對しては本院より送達方を依賴して退出せり

次に第二項の慰問袋の件に關しては別紙袋面體裁の趣旨に依り、當初一千五百袋の募集を爲すことに決定し、七月十九日以降三日間當地兩新聞紙に廣告を爲し一面各委員より熱誠なる勸誘を試み、各官衙會社等を始とし、一般居留民の同情を求めたるに意外の盛況を呈し、豫定の袋數にては不足を告ぐるに至り、更に數百袋を調製し、八月十日の締切期日迄には一千八百六袋の多數を醵集し、豫期以上の好成績を以て結了するに至れり、斯の如くにして同十一日別紙寫の寄贈狀を添へ、現品を旅團司令部へ送納し、別紙寫の感謝狀を受領せり（感謝狀寫略す）尙之が分配方に關しては特に旅團司令部へ、成るべく他の區域内に立入られざらんことを要求し置きたるに別紙寫の如く通知ありたり（通知書寫略す）之を要するに本件が如此圓滿なる好結果を見たるは當委員部の竊かに欣榮とする所なり。

袋面に記したる慰問の趣旨書

匪徒の討伐に從事せらるゝ軍人諸君の困苦と缺乏とは實戰に比し優るとも劣らずと聞くさへあるに、炎暑金を爍かすが如きの候に際す、其苦しみ如何ばかりぞ、さるにても韓國在留の同胞が、枕を高うして起臥することを得るは、全く其が賜なれば吾等婦女子の身にあれど、幾分なりとも之に報ひ奉らむとする心やみがたく、偖は玆に本會の主旨に基つき、會員一同の微衷と大方有志の同情に訴へて醵集したる慰問袋を捧げ奉る、庶幾くは物の腆からぬを咎めず、眞意の薄からぬを酌み給はん事を敬白

愛國婦人會韓國本部平壤委員
部會員一同

▽富山支部近況▽

□年醵金整理　富山支部に於ては會員募集及年醵金整理の爲、女子事務員草野ちゑを七月五日より、約十六日間に渡り下新川郡幹事部内各町内へ出張、遊說せし事は既報の如くなるが其結果として左の通りの應募者ありたりと、

下立村分區	參拾五名
境　村分區	貳拾八名
浦山村分區	六拾參名
内山村分區	貳拾貳名
荻生村分區	貳拾七名
計	百七拾五名

尙八月九日より引續き同幹事部内を遊說中なるが、同十五日迄に於て六拾參名の入會者ありし由。

▽北海道支部近況△　其一

（一）　北海道廳事務官夫人黒金はや子仝西村爲子仝廣瀨櫻子札幌區長夫人青木タカ子の四氏は、七月廿九日付を以て、總裁殿下より支部評議員を囑託せられ評議員大倉文子仝米倉芳子の兩氏は東京府へ移轉の爲、退職されしを以て本會長より挨拶狀を贈與せられ、河島支部長よりは在職中の功勞に對し感謝狀に紀念品を添へて贈呈せり

（二）　札幌幹事部狀況　七月十四日町村長戶長會議に於て、服部顧問より部内十六委員に對し、支部顧問の旨を承け、左記の如く、指定せられたれば皆々會務の發展を視るは疑ふ所なし。

會員增募の件　札幌幹事部内の女子人口四萬三千八百二十一人にして、人口百人に付、會員四人を得んとせば、千七百六十一人となる、而して現在會員九百四十五人を扣除し、尙八百十六人を增募せざれば、此標準以上の數に充たす依て今後增募すべき各委員部別表により諸君は各幹事及篤志者と協力し熱心以て事に當り勸誘宜しきを得は、蓋し至難の業にあらずと信するを以て、諸君は來る四十二年三月を期し、別表の標準に相當する會員數を得ん事に努められんことを望む

未納會費整理の件　四十年度以前に屬する未納金は比較的少く五百五十七圓二十五錢なるを以て、本年度分も合て來る九月迄に必ず悉皆徵收して整理の實を擧げられんことを望む。

（三）　上川幹事部狀況　六月末を以て各町村別會員及會費成績表並に滯納金比較表等を調製し、七月廿日町村長戶長會議の際　旭川外十四ヶ村委員に對し平井顧問より夫々指示する所ありたれば、皆々成績を擧ぐるに至るべし、現在會員數は九百三十八人、新に增募すべき數は千四百拾八人にして來る四十二年三月を期して二千三百以上に達せしむる豫定の由。

▽北海道支部近況▽其二

□支廳長會議の爲來札中なりし各幹事部顧問を六月廿四日午後支部樓上に招集し河島支部顧問より會務上緊要事項左記各項之通指示せられたり。

幹事部長へ指示事項

愛國婦人會は創業年淺きに拘らす　總裁閑院宮妃殿下の御勸奬と下上皇室御保護の下に各位の御盡瘁とによりて今日の隆盛を來したりと雖も本年の總會に於て總裁殿下は　皇后陛下に對し（陛下夙に本會事業に庇護を給はり洵に感激の至りに堪へす智惠子全國會員と共に益々盡瘁して救護事業の完成に努め以て至仁至慈なる陛下の聖旨に副ひ奉らんことを期す）と奉答あらせられたり而して殿下は速に全國百萬人の會員を得んことを望ませられ夙夜會務の擴張に御盡瘁遊はされ過る四月地方長官會議の砌りも華族會館に各長官を招集せられ　殿下台臨在らせられて會務の擴張に關する御旨を拜受せり玆に諸君の會同を機とし當部の希望を述へ諸君と協心同力以て益々會運の發展に努力せられむことを望む

一會員增募の件

總裁殿下は全國を通して現在七十三萬餘の會員を速に百萬人以上に增加し以て救護事業の實を擧ることに御督勵在らせられ給ふ

當支部の現在會員は壹萬六千四百九人にして之を本道女子人口五十六萬三千二人に比例せは人口百人に付會員二人九分の割合に當る今全國百萬人の會員に充すとせは人口百人に付會員四人以上の比例にして本道に於て之を得んとするには更に六千人以上の會員を增募せさるへからす其六千人の會員少數にあらすと雖も現に宗谷、根室、岩內、網走、增毛、室蘭、の各幹事部の如きは既に此標準以上の會員を有す一面本會既往の實蹟に徵するも札幌區、空知、釧路、小樽、河西、札幌、浦河、上川、小樽區、檜山、壽都、函館、以上の各地方に於て六千人の會員を增募するはさまて難きにあらすと信するを以て諸君は援助の立場より宜しく便法を講し職員を督勵し希くは明治四十二年三月を期し標準に相當する會員數を得んことに努められんことを望む

二　未納會費整理の件

會費の滯納額は別紙の如き巨額に上りたるも本會は創業年尙淺きと三十七八兩年に於ける入會者大部分なるを以て今に於て熱心整理するときは是又難事にあらさるを信す殊に婦人は義務を重する點に於て或は男子より秀たる點多きを以て幹事部長は宜く便宜其方法を定め幹事委員と力を協せ必す本年九月迄に於て整理の實を擧けられんことを切望す

三　遺族癈兵救護の件

遺族癈兵の救護は本會の目的とする所之か現況の調査は從來幹事部長に委任し支廳長の援助により救護を要すへき者と否とを問はす各管内在住者全員の現況調査書を作成して本を幹事部に止め正本を支部に提出し更に又年々六月以降に於て現況を調査し（家族の增減境遇の轉變）異動ある者のみを報告し支部長は其報告に基き救護程度を查定して金圓を贈與する次第なり然るに支部の調査せる本道在住の遺族（將校四十六名を除き）扶助料を受くる者千二百四十六名癈兵（五項症以下二百十名を除き）四項症以上の者七十三名計千參百十九名を有せり其內既に調査書の提出されたるもの全道を通して僅に三百餘通に過きす此三百餘通の内より年々七十名内外の被救護者を定めて救護金を贈與しつゝあるも未た提出を見さる約壹千名の遺族中にも必す幾多の被救護者あるも計り難し必竟するに未た現況調査書の提出されさる地方の遺族は今に本會の賜金に浴する能はさる不幸に居るの狀況なきを保せす未提出の現況調査書は此際速に着手せられ本年八月晦日迄に必す取纏め提出せられむことを望む

四　會費送納の件

幹事部に於て領收したる金圓は一月分を取纏め翌月十日迄に送納計及仕譯書を添へ支部へ送納することに本年一月支部細則第十三條を以て割定通達しあるに係らす（上川を除く）各部共實行を見す斯くては經理上支障少からさるを以て今後實行さるゝ樣取扱者へ示達を煩したし

五　會員名簿整理の件

會員名簿は本會々務の基礎にして會員の在否會費の徵收皆之によりて起るへきものなれは細則第二十四條の轉出入者は速に報告せらるゝ樣取扱者へ示達を煩したし

△巡査遺族の定期救護

先頃本會に於て直接國民保護の爲め職に斃れし巡査遺族に對し定期救護金を贈與する事となりし以來未だ孰れの支部よりもその申告なかりしに今般群馬支部より始めてその申請ありたり即ち巡査足山伊太郎氏は凶賊押送途中字三ケ郷森林中より共犯者三名現れ都合四名と格闘し衆寡敵せず遂に撲殺せられしに對し、本部にては其の遺族を本會の優待員とし定期救護金を贈與することを認可したるなり。

懸賞

本書の附錄不思議の繪葉書は、嶄新高尙なる懸賞問題にして之に當選する時は無代價にて奥村五百子詳傳其他の書籍を得るの特權あり、先にその第一回の當選を發表せんとしたるが、近き將來に於て更に第二回の當選を發表せんとす。買物をして利益を得むと思はるゝ方は至急本書を購讀せられよ。

愛國叢書第一篇　女德論叢　定價 金三十錢 郵稅共 一冊

特色

本書の購讀申込は目下が最も好時機なり、此際至急申込まれざる時は、好機空しく逸走して悔ゆとも及ぶ事なし、本書の內容は大隈伯爵、元良博士其他當代の名士才媛の卓說を網羅せり、本書の表裝は先に懸賞にて募集したる圖案中の最も勝れたるものを採りたるもの、內容形式併せ整ひたるもの本書の如きは他に比肩するものなかるべし。

發賣元　愛國婦人會發行所

販賣廣告

製作品目錄

○木綿足袋、紺白キヤラコ足袋、紺瓦斯足袋、純白絹天足袋其他

○各種小兒胸掛（エップル）西洋前掛、シャツ類

○本品は軍人遺族及癈兵家族の製作せしものにして、精選の品質を用ひ裁縫を吟味し、廉價に販賣致候間慈善同情の各位多少に拘らず御求あらんことを乞ふ

○御一報次第定價表御送付可仕候

○十足以上の御注文は市內に限り送料を申受けず

東京麴町區九段坂下牛ヶ淵
東京支部授產場販賣部
愛國婦人會
振替口座　一五二一四番
電話番町　一五、一二〇、七四五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會各支部職員小肖

群馬支部幹事
佩三等有功章都丸ちか子

長崎支部嚴原幹事部長
佩二等有功章原田駒子

福岡支部幹事
佩三等有功章榎本みき子

北海道支部増毛幹事部
幹事伊藤ちな子

群馬支部特別會員
佩三等有功章柴田はん子

長崎支部嚴原幹事部幹事
特別會員鳥居たき子

明治四十一年九月五日（毎月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN